

ナカイユウヒの 雑談

2005 ~ 2011



きりん



くびながきりん

ユウヒ

ナカイユウヒ 著

「ナカイユウヒの雑談」は、その昔、大学生だった僕（ナカイユウヒ）が作っていた個人ホームページの1コーナーとして、ブログスペースを借りてスタートしました。

やがて、本体であるホームページが、僕の怠惰という、やむにやまれぬ事情で、なくなってしまうのですが、それでもなぜか「雑談」の方はそのまま継続していました。

そうして僕の公式ブログとなった「雑談」は、生きる上で大事ではない、どうでもよさそうなことを書くというコンセプトで、時に長い時間放置されたりしながらも、書かれ続けてきました。

それが、だらだら続いて約7年。2011年末になり、そろそろブログとの付き合い方も考え直そうと、いったん区切りをつけることにしました。

「よし、今まで書いたやつを、まとめて本にしよう。いわゆるブログ本を作ろう。電子書籍で！」

そう思い立ち、そのまま本にしてもよかったのですが、念のため、今まで書いたものを読み直して、本として人目に触れさせたくないものは、取り除くことにしました。

2005年から2011年の間に書かれた雑談は650本以上ありました。650本の中には、僕の個人的な恨みつらみ、内輪ネタ、メガネっ娘への想いなど、本に残すには見苦しいものも、一部あったのです。何でこんなものを書いてしまったのだろうと、闇に葬り去りたいものもありました。そういうものを全体からちょっとだけ削ぎ落とすことにしました。

結果、650本から少し減って、120本くらいになったのですが、ちょっと削りすぎたかなと思いきや30本くらいくっつけ、150本にしました。

そうして出来上がったのがこの本です。数多い雑談の中でも、できるだけ「雑談なやつ」を選びました。僕の中では、「雑談なやつ」は「あまり個人的じゃないやつ」とか「日記じゃないやつ」を意味しています。

選び出した記事は、普通に時系列で並べました。また、書籍化にあたり、多少の修正は行いましたが、書かれた当時の表現を尊重し、もしくは面倒なので、ほとんどそのまま載せています。なので、「である」調・「ですます」調が時期によって違ったり、いろいろ見苦しい点はありませんが、ご容赦ください。

あと、表紙を見たら分かると思うけど、こんなやつの言う事だから、ここに書かれたことの全部を鵜呑みにしちゃだめだよ！

2005/1/7 「夢の話」

今日見た夢の中で、なんか偉い先生から、豆腐にもめんとうと絹ごしがあるのは、コラーゲンが関係していると教えてもらった。

へえ、なるほど、と思ったが、目が覚めてから「ところでコラーゲンって何だ？」思い直し、辞書で調べた。

コラーゲンー動物の皮革・腱・軟骨などを構成する硬蛋白質の一種。温水で処理すると溶けてゼラチンとなる。（広辞苑より）

全然関係ないじゃん！

ちなみに、めんとう豆腐は、豆腐を木綿の布に包んで水分を抜いて作る豆腐で、少し硬めに仕上がる。絹ごしは、特に布を使用するわけではないが、木綿に対してそういわれている。

2005/1/12 「A.I.」

テレビでやってたスピルバーグの映画『A. I. 』を見ちゃいました。そりゃあ泣きましたよ。

今日見逃した人のために、見所を紹介するなら、主役のハーリー・ジョエル・オスメント少年の
あごが、ほんのり割れてる所が最大の見所です。

2005/1/16 「雪猫」

雪ネコを作りました。場所は大学の体育館の前です。いつまで溶けずに残るかなあ。



2005/1/30 「ぼのぼの」

今日は『ぼのぼの』第26巻を購入しました。「ぼのぼの」は小学生の頃から読んでいます。一番好きなキャラクターはスナドリネコさん。自分に一番近いと思うキャラクターはぼのぼのです。おっと、「ぼのぼの」を知らない人にはわからない話でした。「ぼのぼの」は幅広い世代に人気のある漫画で、薬を飲まされて体が小さくなってしまった高校生の探偵が、少年探偵として次々と事件を解決していくというストーリー。ぜひ一度読んでみましょう。

2005/4/5 「書類手続きってホント面倒だわ」

今日は大学に教育実習の申請書という書類を提出する日だった。今年僕は教育実習に行くことになっている。

ということで、朝起きて、書類を書き始めた。書類は何枚かあるが、そのうち「個人票」という書類には写真添付欄がある。つまり証明写真を貼らなければならない。しかもこの「個人票」は二枚書かなければならない。一枚は大学が持ち、一枚は実習校に送るらしい。

写真なんてないので、街角のスピード写真のボックスを利用し、証明写真を撮った。

写真を貼り付け、書類を書き進めると、「実習への意気込み」の欄が！こんな欄を用意されると、ものすごくボケたい衝動に駆られる。しかし重要な書類だ。別にボケること自体は怖くないが、書き直させられたらたまらない。いったい一枚書くのに何分かかると思っているんだ。ここは抑えて普通に書く。しかし、意気込みを意気込んで書いたのに、もう一枚の紙に同じことを書かなければならないのが悲しい。ホント勘弁してほしい。

全て書き終え、もう一度これで大丈夫か確認する。すると、「書き方の注意」の紙に「写真白黒・正装」と書いてある。なんてこった。さっき普通にカラー・カジュアルの写真を撮ってきてしまった。しかも貼り付けちゃったし。

とにかく、写真をもう一度、今度は白黒正装で撮り直しに行かねばならない。でもスーツは実家に送っちゃったし。しかたないので、ワイシャツにネクタイをして、それっぽいジャケットを着てごまかす。

いやあ、しかしネクタイがあってよかった。ネクタイを送ってしまっていたら、あるのは蝶ネクタイだけになってしまう。どこの世界に教育実習用の写真に蝶ネクタイで映っているヤツがいるというのだ。もっともそのときは人に借りるなり、買うなりするだろうが。

2回目の写真撮影を無事終えて帰る。スピード写真の機械に「おまえさっき来たよな」と言われるんじゃないかとビクビクしたが、そんなこともなく無事に写真は撮れた。それにしても白黒の写真ってなんか気持ち悪い。こんな人間いね一よと思う。しかもどう見ても最初の写真のほうが写りがいい。なんか撮り直したほうの写真の表情は、決して教育実習に行くにあたっての希望に満ちた顔ではない。なんか「明日はいいことあるかなあ」という感じの表情だ。あまり写真写りにこだわる方でもないが、少し心残りだ。

貼ってしまった最初の写真を無理やりはがし、新しいやつを貼り付けた。これでとりあえず、出来上がりだ。

さっき、それを提出して帰ってきた。何はともあれ一件落着。にしても、僕のおっちょこちょい振りが如何なく発揮された一日だった。

2005/9/8 「携帯から投稿」

いま僕は旅に出ています。日本海と自動車工場でお馴染みの栃木県に来ています。旅に出た理由はだいたい100個くらいあるんですが、車の免許を取ってもいいかななんて思って、要するに合宿教習に来ているというわけです。

23日までこちらにいる予定です。あくまで予定ですが。途中で諦めてもっと早く帰る可能性もありますから。

じゃ、また暇があったら何か書きます。

2005/10/1 「あ、ここでおろしてください」

ようやく免許取りました。これで、ゲルググだけでなくグフも操縦できるようになりました。

教習所を卒業したのが9月28日。翌日29日に地元の試験場で、学科の試験を受けて、結果見事合格。

それにしても、その学科の試験会場で腹の立つことが…。試験官のおじさんが出てきて試験の方法をいろいろ説明するんですけど。説明が長すぎです！

学科の試験はマークシートの解答用紙に書き込む方式になっているのですが、

「それでは、名前を書く欄に名前を書いてください」

「今回受験する免許の種類をマークしてください。普通免許の方は『普通』をマークしてください」

「生年月日の大正・昭和・平成の当てはまる場所をマークしてください」

「生年月日の欄に数字を記入してください」

「そうしたら、次は今記入した生年月日の下の数字をマークしてください」

「試験の回答方法は、全て正しいか誤りかを問う問題になっていますので、正しいと思えば『正』を、間違いだと思えば『誤』をマークしてください」

こんなのが30分続きました。言われなくてもわかるっての。

しまいには、

「回答時の注意事項ですが、解答用紙を、折り曲げたり、破いたりしないで下さい」

誰がするか。それは言わなければやるヤツがいるのか！そんなヤツは車運転できないよ。

そんなことばかり言ってるから、日本は指示待ち人間だらけになっちゃうんだよ。

もうこの文化は変えたほうがいいと思う。わかりきったことを長々と説明されて、時間ものすごくもったいない。

合格発表後の午後1時、手続きなどがあるので再び試験の教室に集まることになっていたのですが、部屋に入ると、部屋が暗い。前のほうしか電気がついていない。前のほうに座ってくださいと入り口付近に書いてあるけど、後ろのほうにもたくさん人は座っているし暗い中でパンフレットのようなものを読んでいる人もいる。僕もとりあえず座りましたが、やっぱり暗いのが気になる。

部屋にはおそらく100人以上の人がいるのに誰も電気を点けようとしな。仕方なく僕が点けに行きました。

まあつまり、僕が言いたいのは、ああいう長々とした説明と、逐一指示を出すようなやり方をしていると、電気を点けることも出来ないような人たちがばかりが育ってしまうということです。たぶん彼らは「点けていいのかわからなかった」と言うのでしょうか。でも、そんなの僕にもわかり

ません。だめだったらまた消せばいいんです。

ま、免許取れたからよしとしよう。もし落ちたら、次のときまたあの説明を聞かされるのかと思うと、絶対に落ちたくなかったですから。あ、ひょっとしてそれが狙いか？あの嫌気がさす説明も合格させるための心理的戦略か？ちなみに試験の合格率は90パーセントで、すごくよかったです。

それでは、よいお年を。

2005/10/3 「オール巨人はとってもお節介」

タイトルは、東京電力のキャンペーンクイズ、「オール〇〇はとってもお〇〇」の穴埋めの答えです。正解した人おめでとう。

「蒲焼さん太郎」っていう10円のおかしの袋に「万一品質に不都合がございましたら、お手数でもお買い求めの月日と店名をお書き添えの上、現品を空袋ごと当社宛へお送り下さい。代品と郵送料を添えてお取替えさせていただきます。」と書いてあるけど、ほんとにお手数だよな。実際にやる人いるのかな？

※ キャンペーンクイズの本当の答えは「オール電化はとってもおトク」です。たしか。

2006/6/7 「盛り上がった誕生日会」

俺、今日、ひょっとして誕生日？

そうか。そんな日も年に一度くらいあるもので、今年も去年と同じ6月7日に来ました。僕の生年月日は『デスノート』に登場する魅上照と全く同じです。同じ日に生まれただけあって、確かに共通点が多い気がするな。職業が検事であるところとか。

そんな今日一日の様子ですが、昨日ずっと飲んでいなかったお酒を少し飲んだので、二日酔いで体調悪い中をすごしました。やっぱり酒はやめようかな。

さて、最近のマイブームは糸井重里さんです。僕にとってほぼ理想的な生き方をしている人の一人だからです。しばらく「ほぼ日刊イトイ新聞」などで、彼を追いかけるつもりです。

そういえばたまたま糸井さんも俺と同じ群馬だったなあ。ま、それはどうでもいいんだけどね。魅上と生年月日と同じであることくらい。誕生日なのに体調不良の中一日過ごすのと同じくらい。

え？誕生日会なんてやってないよ。

2006/5/14 「新聞でしたら間に合ってます」

産経新聞がネット上で月315円で読めるサービスを申し込んだ。俺も大人を気取って、新聞くらい読もうと思ったからである。

このサービスをやっているのが、産経でよかった。産経新聞は2つの理由で好きだから。1つはスワローズファンだということ。もうひとつはスヌーピーファンだということ。

このサービス。とてもいい。かなり使いやすい。300円だから、あと9部は取れる勢いだ。同じやつを。

もちろんニュースくらい無料で見る方法はいくらでもある。でも俺のことだ、ここで300円くらいのお金を払っておいたほうが、結果的に「読まなきゃもったいない」という理由で読むだろう。そういう意味では、料金を30000円にしてくれれば一文字残さず読むだろう。

これで俺も、多くの人がそうしているように、社説を読んでそれをまるで自分の意見のように言いふらしては「賢いなあ」という評価を受けたり、新聞を読んでいない人を馬鹿にしたりできるぞ。「お前新聞読んでないの？ダサいなあ。今流行ってるんだぜ新聞。あ、そうか新聞読んでないから何が流行ってるのか知らないのか」って。

.....俺にとって、新聞ってそのくらいしか役に立たないのが寂しいな。明日から読むのやめようかな。

新しいアパートに引っ越したのに、いまだに学校から帰るとき、前のアパートに帰りそうになってしまう。慣れて怖い。

新しいアパートの一番いいところはトイレだ。イナックスの抗菌トイレで、便器がすごく汚れにくくできている。ほとんど掃除しなくてもきれいな状態が保てる。ウォシュレットもあるし。すごく快適な環境だ。

そんな、きれいで素敵なアパートですが、弱点は昼過ぎから陽が当たらなくなることと壁が薄いこと。ま、壁がないわけじゃないから全然オッケーなんですけど。

今も夜遅いのに隣の部屋から話し声と、ジャラジャラという音が聞こえる。おそらくそろばんを振って遊んでいるのだろう。何がおもしろいのかねそろばんなんて。さて、それじゃ俺はコンピュータ相手にマージャンでもしようかな。

昨日、いつものように徹夜でいろいろ悩んで考えた結果、これからは酒を飲まないことに決めた。大学に入ってから、酒を飲む機会が何度となくあったのだが、いままで酒を飲んでよかったと思ったことが一度もないのである。ボウリングのスコアが出ないときの言い訳くらいにしか使えない。

酒を飲み、酔うと、なんだか人の話が遠くに聞こえるだけで、特におもしろいこともない。ひょっとしたら、よくしゃべる人にとっては楽しいのかもしれないが、俺にとっては残念ながら飲むだけムダなのである。

ちなみに俺は酒は決して弱くはなく、いままで記憶を失ったことはない。だから、ちょっとした酒なら、ジュースと大差はない。だったらジュースのほうが安くていいや、というのがそうきめた理由である。

これで酒に関して決めたことが2つになった。

もうひとつは「人のコップに酒を注がない」ことである。これは大学に入ってからずっと実践している。なぜといわれると困る。俺にとってはなぜ人のコップに酒を注ぐのかの方がわからないからだ。人に酒を飲んで欲しいとも思わないし、自分でやればいいんじゃないだろうか。

ただ、「飲んでください」とか「注いで下さい」と言われれば、特に断る必要もないのでやろうと思う。頼まれればできるだけ断りません。

というわけで、これからは、選べるなら自分から酒は飲みません。どうなるのだろう。いよいよ孤独になるのだろうか。それはそれで楽しみだ。

たまに、アパートの両隣がうるさいことがあります（ちょっと怒）。たまにというかほぼ毎日ですね。溜まり場になっているのでしょう。顔は見たことはありませんが、どうせへらへらしたやつですよ。間抜けな別所哲也みたいな顔したやつに決まっていますよ。もう片方は石倉三郎が若者になった感じだろう。

こういうときは部屋に音楽を流すと結構気にならなくなります。音を別の音で覆い隠してしまうというわけです。これを「マスキング」といいます。

というわけで、アディエマス（とても癒し系）を流すことにしました。くそ〜、両隣のやつ！見てろよ！お前らよりも癒されてやる！

いまさらですが『ハウルの動く城』を見ました。なるほど、賛否両論あるのはわかる気がする。僕としてももっといい終わり方してほしかった。なんか、かかしがかわいそうな気もしたし。がんばったわりにはあまり報われてないような気がして。ただ、最後にルーベンスの絵が見れたのはよかったなあと思いました。

2006/6/23 「それでも生きているよ」

今日は午後6時に起きたわけです。大体、15時間くらい睡眠をとりました。疲れていたのかなあ。昨日頭痛がしていたので、ゆっくり休めてよかったのかも。

で、起きた後、冷蔵庫を見て驚いた。ドアがちょっと開いてた。

まさかずっと開けっ放しだったのか・・・。

そうか、どうりでなんか今日はいつもより涼しいと思ったわけだ。

2006/7/5 「10万円もらった」

毎日長時間寝ていると、たまにはいいこともあるものです。夢の世界で10万円もらいました。

高校生の僕。全校集会のような場所にいると、テレビ局から出演料として全員に20万円ずつ配られました。何の出演料なのかわかりませんが。みんな「やったー20万だ」と大喜びしていましたが、僕が渡された封筒には10万しか入っていませんでした。

なんかみんな大騒ぎしていたので、何で俺だけ10万なんだとは言わず、10万で十分だと思ふことにしました。

2006/7/12 「いいから学校に行きなさい」

「ミスタービーン」のDVDって、980円で買えるんですね。つい買ってしまいました。4万円くらいするのかと思っていました。ああいうコメディってほんとに天才の仕事だなあと思います。

そのビーンことローワン・アトキンソンさんが出ているコメディ映画『ラットレース』を見たのだけれど、これが僕の好みを大きく外れていました。設定は面白いんだけどなあ。なんだか「結局アメリカだな」って感じです。なんだろうな……。少し品がないってことなのかな。

同じ日に見た『七年目の浮気』（ビリー・ワイルダー監督、マリリン・モンロー主演）はすごく面白かったです。こっちのほうがずっと好きです。

僕としては「笑いは頭脳」なのです。だから、「笑いはノリ」的な作品がすごく苦手なのです。

最近、焼肉がブームです。自分で肉と野菜をフライパンで焼いて焼肉のたれで食べています。それで、エバラの焼肉のたれがまたうまい。たぶんエバラで焼肉のたれ作ってる人なんて一日中焼肉のたれのことばかり考えてるわけでしょ？焼肉のたれ馬鹿でしょ？そんな人たちが作るたれだもの。そりゃうまいよ。程よい辛さが食欲をそそるよ。

2006/8/7 「夏の予定」

さて、俺のこの夏の予定ですが。今年の夏は、ガス代を払おうと思います。

実は引っ越してからというもの、ガス代を払っていません。ガス代は自動引き落としにしてくださいというガス屋の要求をめんどくさがって、いままでずっとほうっておいたのです。

だから、4月から4ヶ月は滞納しています。下手するとカイリー・ミノーフぐらいガス代を未納なのです。2万円近いガス代を一気に払うことになりそうです。

あ〜。また本を8冊も注文してしまった。読めるわけないじゃんそんなに。わかってるんだけどさ。まあ、読まなくてもいいっていうような軽い気持ちじゃないと本は買えないね。本を買わないと、お金を何に使っていいか、わからないもの。

さて、ワールドカップとかオリンピックのサッカーの勝ち点のシステムって、なんか嫌いです。4チームでやるリーグ戦だから、結局勝ち数が一番多いチームが一位で、勝ち数が同じなら引き分けが多いほうが上位に来るという当たり前の話だからです。だったら普通に勝ちの数でやればいいんです。

それを、勝ったら勝ち点が3。引き分けだったら1。なんてやってるから、すごく馬鹿にされたような気分です。「そういうふうにしないとわからないでしょ？君たちはバカだから」って言われてるみたいだ。でも実際は勝ち点に置き換えるほうが面倒だしわかりにくい。

勝ち点の制度は、チーム数も試合数も多いJリーグなどにおいては、引き分けで勝ち点がもらえるということで、たとえば勝ちが多くても、引き分けが少なく、負けが多いAチームよりも、勝利数はAチームに及ばないが、引き分けの多いDチームが上に来ることが考えられるので意味があるといえるでしょう。

しかしワールドカップの予選は3試合しかないから意味がないわけです。だからここでひとつ提案します。90分で決着つかなかったら引き分け。この段階で、どちらも勝ち点1はもらえるの。でもその後、Vゴール方式で15分の延長戦やって、どっちか点入れたら、そのチームは勝ち点が2もらえるの。

勝ち→勝ち点3

引き分けだけど延長で点入れた→勝ち点2

引き分けで延長でも点入れられなかった→勝ち点1

負け→勝ち点0 + 罰ゲーム（武田鉄也のモノマネ）

こうすれば勝ち点に意味が出てくるでしょ？同じ3試合でもよりエキサイティングになりそうでしょ？次からはそれをお願いします。

火曜日「ぷっすま」を見ていたら、ガラスを引っかく音を聴かされるという罰ゲームが登場していた。

ガラスを引っかいたときに鳴るキィ〜〜っていう高い音は不快な音の代表みたいな扱いを受けているけど、僕はなぜか小さいときから全然何ともない。みんながあれだけ嫌がるから、なんとなくいやなものというイメージはあるが、よく考えたら平気だ。あと、つるつるしたものをこすったときのキュッキュって音も平気だ。小さいころはこれを利用して、わざとそんな音を出して、母に聴かせたりして遊んでいたものだ。

でも一方で僕は、りんごをかじったときのシャリっていう音がだめなのだ。すごく寒気がする。体の芯から寒い。どんな暑い日でも一瞬で寒くなる。夏には便利そうだが、残念なことに夏にはあまりりんごがない。そんなわけで、りんごの味は嫌いじゃないけど、りんごをかじって食べるのは少し抵抗がある。

このことに共感してくれる人がめったにいない。ほとんど皆無かもしれない。たぶんシャリという音は氷などの冷たいものを連想させるから、こういう現象を引き起こしているんだろう。母にそのことを訴えると、「このりんごはそんなにすっぱくないから大丈夫だよ」と返されたりする。全然わかってない。音だって言ってるのに。

こういう風に感じ方がずれていると、損なことが多そうだ。たとえば、マジカルバナナで「りんごといったら寒い」と言ったとき、別に寒くないのでアウトと言われてしまうのだろうな。すごく損だ。

2006/12/2 「カウントダウンやさい」

好きな野菜ベスト10！

第10位 なす・・・その紫っぷりで、堂々の10位にランクイン。マーボなすくらいしか調理法が思いつかないところが、それ以上あがれない理由か？

第9位 ほうれん草・・・バターソテーなどにすると、とてもおいしい。おひたし、みそ汁の具としても安定した力を発揮。茹でるのがめんどくさいという弱点を克服できれば、トップ3も狙える。

第8位 にんじん・・・これもソテーにすると甘味を発揮しうまい。カレーの具にも欠かせない存在だ。野菜ジュースにも引っ張りだこ。緑が多い中、オレンジの独特の色と、ベータカロテンの豊富さで不動の地位を築いた。

第7位 ごぼう・・・豚汁に入っているごぼうのうまさは別格だ。地味ながらいい仕事をする職人肌ぶりには敬意を表したい。細長さにおいては、長ねぎをもしのぐといわれている。

第6位 長ねぎ・・・みそ汁の具としての獅子奮迅の活躍もさることながら、ほかの料理を引き立てる薬味としての能力も忘れてはならない。皮をむくなどの面倒な作業がいらぬその使いやすさは高く評価できる。

第5位 じゃがいも・・・フライドポテトってうまいよね。そういえば、小学校のころ「じゃがいも」ってあだ名の女の子がいたなあ。じゃがいもに似ているからそういうあだ名がついたんだって。俺、体育の時間にその子とぶつかって転ばせちゃって、あ、しまったと思って、「ごめん」って謝ろうと思ったら、つい間違って「ざまあみろ」って言っちゃったんだよね。悪かったな。

第4位 ピーマン・・・焼いてもうまい、生でもうまい、歯ざわりがいい。とにかく味がいい。こどもからは支持されにくいけど、玄人好みの深さで4位入賞を果たした。

トップ3の発表の前に気になる第11位以下の発表！（マイナー野菜は除く）

- 第11位 いんげん
- 第12位 大根
- 第13位 トマト
- 第14位 かぼちゃ
- 第15位 もやし
- 第16位 きゅうり
- 第17位 ブロccoli
- 第18位 セロリ
- 第19位 小松菜

第20位 はくさい

それではいよいよトップ3の発表

第3位 レタス・・・サラダに入っているとうまい、人呼んで生のスペシャリスト。生でここまで力を発揮できる野菜はレタスを差し置いて存在しないのではないだろうか。種目別「生」では常に王者に君臨し続けている。

第2位 キャベツ・・・いためたり、焼いたりすると無限大のうまみを発揮するが、生でも、千切りならレタスに引けをとらない力を発揮。その守備範囲の広さ、総合力を考えると、しばらくこの地位は安泰と言えるだろう。

第1位 たまねぎ・・・目が痛くなる、生だと辛いなどの弱点の多さから、上位進出は無理と多くの専門家が予想する中、妖しい魅力でダークホースと呼ばれていたたまねぎがなんと1位！理由は串カツのたまねぎがすごく甘くてうまいという「揚げ」部門でのダントツ1位通過。さらにカレーの具としても最高の評価を獲得し、「焼き・炒め」部門でも上位に食い込む活躍を見せ、野菜ランキングを制した。

いつものようにソニーのメモリーオーディオを聴いていると異変が起きた。イヤホンの右のほうからしか音が出てこないのだ。考えられる可能性は

- ①メモリーオーディオが壊れた。
- ②イヤホンが壊れた。
- ③僕の左耳が聞こえなくなった。

の3つだが、イヤホンを半分くらい引き抜くと左からしか音が出てこないという法則を発見したので、③の可能性は消えた。携帯電話で音楽を聴くためのイヤホンをつないだら大丈夫だったので、どうやら②らしい。①じゃなくてよかった。これからはその携帯用のイヤホンを使おうと思う。

保険のテレビCMで「一生サポートします」「この内容のサポートが一生続きます」みたいなことを言っていた。ということは、たとえば、今30歳の市橋さん（仮名）が加入したとして、その保険会社で働いている坂西さん（44歳）が市橋さんの健康状態とかを見たりして、サービスを展開する中、やがて坂西さんも定年を迎え退職。その後の市橋さんを坂西さんの後輩がサポート・みたいな世代交代が起こり、さらに時を経て、坂西さんが他界。それからいよいよ市橋さんも一生を終えて……。こんなことが続いていくということか。なんだろう、この悲しさ。一生単位の仕事ってどういうことだ？保険ってなんだ？

この感じは、あのときに似ている。それは数年前、サークルの先輩に携帯電話のカレンダーがいつまであるのか気になって、ずっと下ボタンを押し続けていたという話を聞いたときだ。2100年を越えてもまだカレンダーがどんどん出てきて「私、こんなに生きてないよ〜」と、すごく悲しくなって、怖くなってそれ以上探るのをやめたという。それを聞いたときの感じだ。

これは何だろう。この2つに共通するもやもやしたいやな感じは、単に死が悲しいということだけではなく、自分が死んだ後も世界は続くということにあるのかもしれない。自分が死んでも、保険に入っている人がいて、保険のサービスやシステムが続くこと、2100年以降のカレンダーを使う人がいること。まるであなたの死なんて関係ないと言わんばかりにそれらは存在する。そのあたりに非情さを感じるのだろうな。人の一生（あるいは死）は、他人から見れば人生の一部。でも本人からすれば全てだもの。どうかそのことを忘れないでね。

A C 公共広告機構のCMで、「もし親と子が逆の授業参観があったら」というのがあって、お父さんが息子の趣味が言えなかったりするのだが、どう考えてもおかしい。書いてあるのを読めばいいのに、どうして言葉につまっているのか。趣味を知らないなら「趣味は・・・」などと切りださなければいいではないか。なので、息子や家族と無理に会話をする必要はありませんね。だって、会話を無理やりする感じってほんとに気持ち悪いよ。「最近どうなの？」なんて、聞かれたほうも答えづらい質問なんか飛び交ってたらいたたまれないよ。

それで思い出したが、携帯会社がマナーを訴えるラジオコマーシャルがあって、それは書店などで携帯電話のカメラで雑誌の記事を撮るのはやめましょうというものだった。「マナーって想像力の問題だと思うんです。雑誌のページをカメラでパシャって撮るのは、雑誌のページをビリって破いて持っていっちゃうようなものじゃないかしら。そんなことをしたら本が売れなくなって、本を売る人がいなくなって、本を作る人もいなくなる。そうしたら結局困るのは自分。そういう想像力が大切だと思うんです」というようなことを言っていたと思う。でも僕がどう想像してもそうはならない気がして仕方ない。僕の想像力がかけているのだろうか。まずカメラで撮ることはページを破くことと同じだとは思えない。次に、仮にページを破いて持っていく人が続出しても、本を売る人や、作る人はいなくなると思う。それ以上の魅力や利便性が本にはあるから。写真を撮る人はそれがわかっているからやってるわけでしょ？だからマナー違反者は減りませんね。残念でした。

カップ焼きそばをつくるとき、いったん麺を取りだし、かやくを下に入れて麺を戻し、お湯を入れるようにすると、湯きり口から具がこぼれなくていいという情報を聞いたが、僕の経験上、そんなことをしなくても湯きり口から具は飛び出したりしません。なので僕はやりません。

2007/2/24 「そこに本があるから」

今年の目標は本を100冊読むことで、それ以外には特に目標は立てていない。だから、今年は本100冊さえ達成できれば、あとはがんばる必要はない。本でも読んでのんびりしていればいいだけだ。

しかし、なんとまだ今年に入ってから3冊しか読み終わっていない。これは予想をはるかに下回るペースだ。ちなみに、漫画は数に入れていない。漫画を入れれば15冊くらい読んだ気がする。今日なんとかもう一冊読もうと思う。

一方で今年買った本は、30冊におよぶ。今日も5冊買った。もう完全に浪費癖である。まだ読んでいない20数冊のほうを先に読んでから5冊買うべきなのだ。わかっているけど、あたらしいのがどうしても欲しくなってしまう。

まあ、今のところ、たくさん本を同時進行的に読んでいるので、だんだん読み終わる本も増えてくるだろう。

あ、これを書いていたらもう本読む時間がなくなった。

2007/4/13 「テレビが壊れた」

タイトルにあるように、テレビが壊れました。

テレビって、3色の光の組み合わせで、色を出すでしょ？そのうちの緑が完全に出なくなってしまったのです。赤と青だけが残ってる状態。だから出る人出る人みんな、どんだけヤバイきのこ食べたらそうなるんだってくらい紫の顔になってます。ちょうど赤ワイン越しにテレビを見ているような感じです。

だから一応写らないことはないんですが、すごく気持ち悪いわけです。これを我慢できる人は、よほど我慢強い人か、いつも赤ワイン越しにテレビを見ている人だけだと思います。

まあ慣れれば大丈夫かもしれませんが。

10年近く使っているので、壊れても不思議ではないですが、もう少しがんばってほしかった。今テレビを買うお金の余裕なんてないよ。どうしようかな～。どこかにアクオス落ちてないかな～。

2007/5/7 「水」

今日、水道料金の請求が来た。1000円くらいだった。湯水のごとく使った割には安いと思った。さすがは湯水だ。

2007/5/13 「今欲しいもの」

テレビが欲しい。どんなテレビがいいかといえば、ちゃんとカラーが3色出るやつがいい。2色しか出ないやつはもう持っているからいらぬ。

家電量販店に見に行った。液晶テレビがかっこいいと思った。また、パソコンでもテレビが見られるものが多いので、それも欲しいと思った。3色の色が出るのはやっぱりすごいと思った。でもどっちにしても今の僕には高すぎる。

でも、僕にはお金と将来性と人間的な魅力があまりないので、しばらくは2色のテレビで我慢するしかなさそうだ。

2007/5/14 「喫煙者って多いな」

喫煙者でもないのにタバコ臭くなってきた。どうやら、バイト中に髪の毛などに煙が付着するようだ。なかなか匂いが落ちず、髪の毛を洗うのが大変だ。この世からタバコと戦争と病気がなくなればいいのと思った。

2007/7/27 「ソガノイルカショー」

今日、バイトが早く終わったので、イルカショーを見に、品川アクアスタジアムという水族館に行った。その水族館、どこにあるのかというと、品川にある。

なぜイルカのショーが見たかったのかといえば、イルカがジャンプするところが見たかったからだ。考えれば考えるほど、水の中からジャンプするってすごい。どんなに泳ぎのうまい人間でも水中から1ミリでもジャンプすることは不可能だ。シンクロの選手が高く飛ぶことはあるが、それはほかの選手の力を借りているから出来ることだ。だが、それをイルカは簡単にやってのける。しかも7メートルくらいの高さまで飛ぶらしいのだ。

ショーは素晴らしかった。来てよかったと、心から思った。僕の中で、イルカに対する尊敬の気持ちが芽生えた。

ほかのお客さんは「イルカはおりこうだ」と言っていたが、何でそんな上から目線なのか。彼らは人間にはとてもできないことをやっているし、水の中では圧倒的に強くて、美しいのだから、もっと敬意を表すべきだ。イルカは人間より脳みそが大きいらしいからなおさらだ。だからそこあれだけの芸をやってのけるわけだし、「なごり雪」を歌ったりもするわけだ。

今日のショーを見て、将来イルカの調教師になりたいなと少し思った。イルカショーが終わったあとは、アシカショーを見ずにすぐ帰ってきた。アシカなんてどうでもいいんだから。

2007/7/28 「アジアカップ」

サッカーのアジアカップが行われている。今、日本は3位決定戦で韓国と戦っている。

僕のこの熱い思いが、どこまで届くだろうか。

新しいテレビが欲しい。誰かテレビをください。液晶の20型くらいのやつを。

前にも話したが、テレビが壊れて、3原色のうち緑が出ないのだ。だから本来、緑のはずのピッチの芝生が、僕のテレビを通すと、枯れ草にしか見えない。すごく見づらい。

リサイクルショップとかで安く売ってないかな？

2007/8/15 「決意」

セミの屍骸がいたるところに散乱し、セミの屍骸収集が趣味の人にはうれしいこの季節。皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、僕はといえば、ついにテレビを買う決心を致しました。しかも液晶テレビ、アクオス（20V型）です。

パソコンも買い換えたいので、もっとお金を貯めて、テレビの見られるパソコンにしようかなとも考えたのですが、いろいろ調べるうちに「インターネットアクオス」という手があることに気づきました。インターネットアクオスはアクオスにつなぐパソコンで、つまりはテレビがそのままディスプレイになるわけです。これなら、先にテレビを購入しておき、少し時間を置いてからパソコン本体を購入するという手段がとれます。テレビが壊れている僕にとっては、ちょうどいい気がします。我ながら目の付け所がシャープだと思いました。

買いましたよ。アクオス（詳しくは前回は参照）。すごいです。すばらしいです。前のテレビは14型のブラウン管テレビで、音声はモノラルだし、映像に至っては色が2色しか出なかったのに対して、アクオスは薄型の20V型液晶のデジタルハイビジョンの省電力とかだからものすごいステップアップです。前のテレビなんて何一つ勝てる部分がない。

でも、そうやってしまうと、前のテレビにすれば「お前はあいつと比べて、顔も性格も運動も勉強もだめだな」と言われているようなものだ。少しかわいそうなので、いいところを探してみると、ひとつだけあった。上に置時計が置ける！・・・以上。

まあ、他にも泥棒に盗まれにくいとか、夫婦喧嘩のとき相手にぶつけやすいなどの長所はあるかもしれない。彼はアクオスと引き換えに部屋を去っていった。

今日、久しぶりにケンタッキーフライドチキンに行った。あの揚げた鳥のことをなんと言うのか忘れてしまったが、急にあの揚げた鳥が食べたくなかったからだ。あのかわいらしい、にわとりのキャラクターの描かれた看板を見て、「これってダック引越しセンターのキャラクターにとさかがついただけみたいだなあ」などと思いながら店に入った。そこで揚げた鳥4つとポテト2つのセットみたいなのを持ち帰り注文した。

お店の女性店員は、とても素敵な笑顔を僕みたいなものに向けてくださった。たいていのお店の女性は僕を見るとき、虫を見るときのような目で見るとか、調子のいいときで、とうもろこしを見るときのような目で見るので、今日のような笑顔は、最近思春期に入った僕にとっては、照れくさくて仕方なかった。

2007/9/25 「友達の詩」

ずいぶん前の話になるが、携帯電話のメールアドレスを変えた。携帯電話を持つようになってから初めてのことだ。理由は、なんか「人妻とセックスをするとお金もらえるよ」的なメールがたくさん届くようになり、うっとうしかったからだ。こんなのウソに決まっている。どうせいくらセックスしてもお金なんてくれないんだろ。

で、アドレスを変えたわけだが、肉親以外のほとんどの人に新しいアドレスを教えていない。教えなければいけないくらいお世話になった人もいれば、これからも付き合っていきたい人もいるのに。なんかめんどくさいし。こうやって僕は友達をなくすのだろう。

ちょっと前にバイト仲間に誘われ、東京ビッグサイトで行われていた「旅行博」というイベントに行くことになった。でも当日家を出たあと、財布と携帯電話を忘れたことに気づき取りに戻った結果、約束の時間に大遅刻。こうやって僕は友達をなくすのだろう。

まあ、友達なんて一生かかって2～3人くらいできれば十分だと思うことにしよう。

2007/10/3 「いるのにいない」

僕のアパートの部屋の玄関のチャイムは壊れている。ボタンを押しても「ピンポン」と鳴らない。そのせいで、今日家にいたのにもかかわらず、この前注文したDVDを届けにきた配達の人が、不在票を置いて帰ってしまった。

今までめんどくさくて、つい後回しにしてしまっていたが、ちゃんと不動産屋に連絡して、ボタンを押したら「このチャイムは壊れていますので、ドアをノックしてください」という音声案内が流れるように改良してもらおう。

パソコンを買おうと、ひそかにたくらんでいる。そのたくらみぶりたるや、タクラマカン砂漠で暮らしている人も気づいていないくらいだ。タクラマカン砂漠で暮らしている人なんているのかと思う人もいるだろうが、「セブンイレブン タクラマカン砂漠支店」の店長はそこで暮らしているはずだ。一家で。

買おうと思っているのは、前にも言ったが、「アクオス」とつなぐことで、その能力を最大限発揮することでおなじみの「インターネットアクオス」だ。三国志における馬超と韓遂の関係みたいなものだ。

伝わりにくい例えはともかく、なぜ、ここに来てパソコンを買おうとしているのかといえば、今使っているパソコンのCDドライブがおかしくなってしまう、CDを読み込むことが出来なくなってしまうからだ。さらに、OSがウィンドウズMeという、弥生式土器と一緒に出土された古代のやつなので、ソフトが入らないなどの問題が多くて、こりゃ買い替え時だと思ったからだ。

お金は、まあちょっと無理してでも買ってしまおうと思う。12月を予定している。

2007/12/19 「さつたん」

昨日久しぶりにカレーを作った。一年ぶりくらいだと思う。最近忙しくて、手の込んだ料理なんてしていない。カレーでさえ、相当手の込んだ料理だ。でも、今人類でカレーが作れるのは僕くらいなので、忘れないように作ってみたのだ。

それにしても、カレー時間かかる。材料切ったり、煮込んだり。面倒くさい。もう、にんじんとか最初から切れた状態で生えろ。

で、今日の夜、残りを食べたらおなかを壊した。もっと加熱するべきだった。明日はもっと加熱してから残りを食べようと思う。

2008/1/22 「石畳」

僕も、いつの間にか大人といわれる年齢になってしまったが、いまだに、道を歩くとき、石畳の境目の線を踏まないように歩いたり、横断歩道で、白線しか踏まないようにしてしまう。

大人になると、こういう、白線の上を歩いて、落ちちゃいけないとか、影踏んじゃいけないとかの遊びが、堂々とできなくなってしまったが、本当は大人もみんなやりたいんじゃないだろうか。その気持ちをかなえるような新しいビジネスを始めたら結構はやるんじゃないだろうか。

今日は気分転換に、風呂屋に行った。まあ、スーパー銭湯的なところだ。

休日は混むなあ。なんか、風呂に入るといふより、裸の人の群れの中に裸で飛び込んでいく人みたいにならざるを得なかった。思ったほどくつろげなかった。まあ、でも、いい湯だった。

帰りにファミレスで食事を取ろうとしたが、夕飯時だったので、少し待たなければならないようだった。たいていファミレスには、入り口のところに、待っている人が名前を書く紙が、置いてあるでしょ。それに名前を書こうとしたが、その紙の開いてるスペースに「遅すぎる！早くしろ！」と書いてあって、店に責任はないが、なんかいやな気分になったので、名前を書くのをやめて、店を出た。そういうマナーの悪い客は、次の合戦のとき、後ろから矢で撃たれると思った。

帰って来ました。群馬に。今、実家の布団でぐっすり眠っているところ。

来る途中、電車の中で、つり革に両手でつかまっている、疲れた様子のおっさんがいた。混み合う車内。僕も座ることはあきらめていたけど、席が空いてたら座りたいんだろなあ、あのおっさん、なんて思ってたら、ある駅でそのおっさんの前の席が空いた。おっさんはそこに座った。よかったなあおっさん、座れたなあ、と思っていたら、驚くべき出来事が...

おっさんは立ち上がり、その駅で乗ってきたおばあさんに席を譲ったのである。そして再び両手で、体重を乗せるような感じでつり革につかまり、疲れたような表情をしながらおでこを両手に乗せて、電車にゆられていた。

僕はそれを見て何かを感じたが、何を感じたのか、よくわからなかった。ただ決しておっさんに対して好意的な気持ちではなかった。とにかく、おっさんの予想外の行動に、僕は裏切られたような気持ちだった。

その後、僕は電車を降りたので、おっさんがどうなったかわからない。あれから8時間くらい経ったので、そろそろ座れていると思う。

海援隊の『贈る言葉』という歌がある。教科書にも載っているという名曲で、歌うときは必ず髪の毛を邪魔そうにはらいながら歌わなければいけない曲だが、聴く度いつも思うのは「おくる～ことば～」の「こ」から「と」に移るとき音程下がり過ぎだろ！ということだ。せっかく右肩上がりだったのに、何があつての大暴落なのか。

これを、小中学生が歌うと、気持ち悪いくらい下手に聞こえる。横髪を後ろにはらいながら一生懸命歌ってはいるが、あいにく、この落差を上手く聴かせる歌唱力など小中学生に備わっていない。

だから、そこの部分を聴くときだけ、誰が歌うかに関わらず、ものすごく身構えてしまう。そして、大抵の場合、やっぱり何かヘンに聞こえる。音程が間違っていなくても。何かヘンな感じがするのだ。そのたび、「あーあ。やっぱり」と思う。そして、何か残念な気持ちだけが後に残る。音楽の力ってすごいですね。

2008/1/25 「あしたの」

今週はもの凄く疲れた。燃え尽きた。すっかり燃え尽きて、矢吹丈みたいな髪型になった。

そして、やっと満足できるまで眠れる。明日は一日中寝ます。それじゃ。

2008/1/27 「今日も休日」

私の前方後円墳の前で泣かないでください

こんにちは。昨日本当に一日中寝ました。本当に一日中寝るとは自分でも思わなかった。

2008/2/4 「今年の冬も」

また、いつの間にか、手袋を片方無くした。頻繁に決闘を申し込んでいるわけでもないのに、毎年手袋を片方無くしている。僕の中では「手袋無くし」は、すっかり冬の風物詩になっている。

あれは落としても、音がしないので、気付かない。だからおそらく、どこかで落としたのだろう。音はしなかったけど。落としたのだろう。

来年は落としたらすぐわかるように、ガッチャガッチャいう西洋の鎧騎士が付けてる感じの、籠手の付いた手袋にしようと思う。

今日の血液型占い！

おめでとう。今日最も不幸が少ないのはB型！コタツのスイッチを切り忘れて、電気代を少し無駄にします。でも火事にはならないので大丈夫。

2番目に不幸が少ないのは、O型。コタツのスイッチを切り忘れた上に、牛乳を冷蔵庫にしまい忘れ、いくら冬とはいえ、ちょっと怖いので捨てる羽目になります。

3番目に不幸が少ないのは、A型。コタツのスイッチを切り忘れ、牛乳を冷蔵庫にしまい忘れた上に、結構気に入っている服に、食べ物の汁がちょっと飛びます。

最も不幸が多いのはAB型です。コタツのスイッチを切り忘れ、牛乳を冷蔵庫にしまい忘れ、気に入っている服に食べ物の汁がかかる上に、ずっと年下か、同い年だと思っていた人が年上だったということがわかって、敬語で話すべきか悩みます。

それでは、今日もハッピーで楽しい一日を！

噂によれば、最近のデジカメには江川を認識して、自動的にシャッターを切るものがあるらしい。つまり、江川卓がフレームに収まるとカシャッと撮影されるのだ。おそらく耳の形で判別できるのだろう。だから娘の方も認識されると思う。達也や紹子はどうなんだろう。

まあ、これでいままでのように江川を撮り逃して、悔しい思いをしなくても済むということだ。

もちろん、江川以外も撮れるのでご安心を。

私のピラミッドの前で泣かないでください。

体にいいので、毎日魚を食べることにした。魚に含まれるDHAなどには、うつを予防する効果があるらしい。そういえば、僕がうつだった大学時代、あまり魚を食べていなかったような気がする。そうか、魚を食べなかったからうつだったのか。引きこもりがちで、友達があまりいなかったのも、就職活動をしようとしなかったのも、朝方寝て夕方起きる生活をしていたのも、起きてから「あ〜今日も授業行かなかったなあ」なんて思っていたのも、あまり魚を食べていなかったからか。逆に魚さえ食べていれば、人気者のモテモテ大学生だったのか。魚ってすごいなあ。

駅から家までの帰り道に、ドリームキャストの本体が落ちていた。ドリームキャストは発売当時、あまり道に落ちていないことで有名だっただけに驚いた。セガの三木一郎を殺してまで大々的に売り出していたドリームキャストもすっかり廃れてしまったものだ。でも、ドリームキャストも、面白いゲームができることを忘れてはいけない。ゲームキューブと交互に積んで、一番下のを横からハンマーで叩いて崩さないように抜取るゲームとか。

なぜなぞってどの程度成立してるんだろう？

例えば「パンはパンでも食べられないパンは？」という定番のやつも、フライパン以外にかなりたくさん正解がある気がする。チノパン、ルパン、サイパン、プロパンなど世の中に食べられないパンはたくさんある。なのにフライパンのみ正解とする態度は、学問的ではない。

あと「盗んでも怒られず、ほめられるものってなんだ？」「答え：塁（野球の盗塁）」というのもどうだろう？盗塁でほめられるのは、ほめるひとが味方だからであり（監督とかファン）、やはり盗まれた方（相手チーム）は嫌なものである。これは塁に限らず、ほとんどのものがそうだろう。万引きや窃盗も、味方（共犯者）がいればほめられるわけだ。

このように、なぜなぞは問題として成り立っていないケースが多いのである。この問題にわれわれは目を背けず、真剣に取り組む必要があるのではないだろうか。

2008/7/27 「ノートパソコン買った」

そう。言わなければならないことがあった。

パソコンを買ったのだ。

え？また？と思った方は、相当な僕マニアだとお見受けする。そう。確かに、去年インターネットアクオスというテレビにつなぐパソコンを買った。でも、また買ったのだ。

今回買ったのは、hpの出しているミニノートPCというやつで、ものすごく持ち運びしやすいやつだ。ちょうど、まっすぐな屋根瓦を持ち歩いているような感覚で簡単に持ち運べる。当然、屋根瓦のように、カバンにもらくらく入る。

小さくて低価格というパソコンは、最近わりと流行っているようだが、もちろん流行っているから買ったのではなく、前々から、持ち運びしやすいパソコンが欲しかったのだ。

これによって、今までのように20V型のアクオスと、ZZガンダムのプラモデルの箱くらいの大きさのインターネットアクオスを、左右両脇に抱えて持ち歩かなくても済むようになった。

今も、そのパソコンを使ってこれを書いている。これがあれば、雑談も手軽に書くことができる。続きはまた。

あなたの今、一番知りたいことは、僕が新しいパソコンを買ったあと、どうなったのかということだと思う。

なので、そろそろ書こうと思う。

まず、ネットに接続できるようにしたいので、ネットが、部屋中どこに持ち運んでも使えるように、無線LANを設備することにした。それにしても無線LANと無精卵は似ている。どちらも野球選手ではないところが似ている。

LANに関する本を一冊買ってきて、それを頼りに、長渕剛の『乾杯』や『順子』を歌いながら、LANを設備していく。最終的には、かなり満足いく形に、LANシステムを構築することができた。

インターネットアクセスのDVD-RWのドライブを、そういうメディアドライブのない新しいパソコンと共有したり、プリンタを共有したりできた。便利な世の中だ。

そして、思わぬ収穫は、ニンテンドーDSがWi-Fiとかいうのにつながるようになったことだ。まあ、別にどうでもいいんだけど。

というわけで、僕にもIT革命がやってきたってわけ。

みんな知らないと思うが、ここだけの話、いま、北京でオリンピックが開かれている。

そして今日、水泳の北島康介選手が、100m平泳ぎで、金メダルを取った。

ものすごく感動した。前回のメダルからいままで、苦しみながらも努力を続け、毎日、おそらく、ご飯を食べてるときとか、寝ているときも、この日のことを考えていたこと、そして、それが無駄にならなかったことを考えていたら、表彰式を見ながら、涙が止まらなかった。

しかも、58秒台の世界新記録。北島の代わりに僕が出ていたらどうなただろう。僕は、水に入るとき、あし先からゆっくりじゃないと入れない派なので、おそらく、肩まで入ったところにちょうどそのくらいのタイムになっていると思う。未練がましく飛び込み台につかまりながら、ゆっくり水に入ると思う。小学校のとき、水にいきなり入ると心臓がびっくりして止まると教わった。いまだに、急に水に飛び込んだら、もれなく死ぬと信じている。だからプールに入る時も、風呂につかる時も、できるだけゆっくりを心がけている（そのおかげでこの年まで生きることができた）。代表に選ばれたのが北島でよかった。

年が明けた。やっぱり、年も新しいほうがきれいでいいな。でも12月くらいになると、もうぼろぼろになって飽きちゃって使いたくなくなっちゃうんだよね。ところどころ黄ばんじゃうし。で、毎年最後のほうは消化試合みたいになるわけだけど。今年は最後まで使い切りたい。有意義に。

今日は珍しく、明治神宮に参拝に行った。そういえば最近神社に行っていないから、そろそろ行ってみようかな、年も明けたことだしと思って。そうしたら、たまたま今日参拝する人がものすごく多くて、ウジ虫の如く人がごった返していた。仕方なく、順番を待つことにした。

本殿に向かう途中、大きなスクリーンが置いてあった。そこには、その横に設置されたカメラを使って、ウジ虫の群れが映し出されていた。自分たちが映っていることに気づいて、あちこちで手を大きく振るやつがいた。ああはなりたくないなあと思った。

ずいぶん時間がかかって、ようやく参拝完了。これだけ並んでも、今年一年幸せに過ごせるだけなんて、割に合わないなあと思った。

しかし物理的に見れば、これだけ多くの人が、お金を投げ入れるために集まってるわけだから異様な光景だな。

ちなみに僕は神様を信じていないので、お祈りではなく、自分に誓いをたてるために行きました。今年こそ頑張るって。

夜寝ようとする、隣の部屋から大きないびきが聞こえてくることがある。というか、毎日のように聞こえる。少しは遠慮してほしいものだ。僕はいびきをかかないことにしているが、見習ってほしいものだ。

それにしても、いびきの独特な音って、起きているときに再現しようと思ってもできない。ガーッと喉を鳴らすことはできるが、本物のいびきとは程遠い。うなり声にも近いが、それも本物とはだいぶ違う。寝ている間だけしか出せないのが不思議だ。

プリンタがいつの間にか壊れてしまった。えぷ山そん太郎さんが立ち上げ、社長の名前を取って社名にしたことで有名な、エプソン社の複合プリンタで、ずいぶん古い機種なのだけど、黒いインクが出なくなってしまった。インクの残量がないわけでもないのに。インクを取り換えれば使える可能性もゼロではないが、どうも違う気がする。どうやら故障のようなのだ。壊れたプリンタほど部屋に置いてあって邪魔なものはない。あるとすれば使わなくなったロデオボーイとか、祈らなくなったお地蔵さんとか、着なくなった武者鎧とかしかないだろう。

スキャナとしてはまだ使えるし、すぐにかえるお金もないとはいえ、最近プリンタも進歩し、この壊れたプリンタよりもいろんな面でいいものが1万円も出さなくても買える時代だ。修理に出すより買いかえたほうがトクなのは明らかだ。しかし、このでかいのをどう処分していいやら。壊れたプリンタが必要な人がたまたまうちに引き取りに来てくれたらいいのに。

それはともかく、爽健美茶などに含まれる成分の「キヌア」という文字を見ると、どうしても「リーブス」という言葉が浮かんでしまうのは、仕方ないのでしょうか。諦めるしかないのでしょうか。皆さんはどうしてますか？

2009/5/5 「速報」

4月くらいから、筋力トレーニング。略して筋トレをちょっとずつやっている。めんどくさがり屋が服を着て歩いてるような僕が、無理なくできるくらいのペースだ。

でも、ちょっとずつ体の各部位が、ややかためになってきた。効果は出ている。

このまま頑張っ、左の肩のあたりをモコっとさせて、ショルダーバッグがずり落ちないようにしたいと思う。

自分が嫌になる。

今日はカレーでも作ろうと思って、材料を用意していた。まずニンジンを切って、それから玉ねぎも切ってみた。そしたら、ぐじゃっとなった断面が・・・。明らかに悪くなっていた。ずいぶん前に買った玉ねぎだけど、まだ大丈夫だろうと、1～2週間くらい前から思い続けてきたのに。

外見では分からなかった。見た目は若いけど45歳だった。

玉ねぎを入れないカレーは食べたくない。しかし、スーパーまではだいたい4光年くらい離れているので、玉ねぎを買いに行くのはめんどくさい。絶望だ。

途方に暮れつつ、ひょっとしたら覚えていないだけで玉ねぎを昨日買ったかもしれないと思い、冷蔵庫を開けてみた。

残念ながら、やはり玉ねぎはない。そして、たまごの賞味期限が明後日だ。

しかし、この6個入りのたまごは開封すらされていない。「パック日：5月22日」と書いてあるが、買ったのは5月30日くらいだったと思う。完全に賞味期限を見ないで買っていた。しかも今日まで見なかった。明後日までに一人で6個のたまごを食べなければならなくなった。あまりに急な話である。

自分に無性に腹が立ち「じゃあもういいよ！オムレツをおかずに生たまごかけごはん。たまご食いまくってやる」ということになった。さっそくたまご3つ分でオムレツを作った。でも、まだご飯が炊けていないので、先にオムレツを食べながらこれを書いている。

ちなみに今日の昼食はタマゴサンドだった。

2009/7/15 「赤ワイン」

赤ワインを買った。お酒は別に好きではないので、いままで家で一切お酒を飲まなかったのだが、最近読んだ本によると、ある程度のお酒は体にいいらしい。特に赤ワインはポリフェノールが入ってるからすごいらしい。あのポリフェノールが入っているから、それはもうすごいらしい。ポリフェノールがなぜ体にいいのかは知らない。たぶん、体中の病気が全部治るとか、そういう効果があるのだと思う。

そんなわけで、健康のために、たまに飲んでみようと思って、買ってきたのだった。でも、ワイングラスがないんだよな。ワイングラスで飲まないで、せっかくのポリフェノールの効果も半減してしまう。でも「ポリフェノール2倍」と書いてあるワインを買ってきたから、普通のコップでも、普通の赤ワインと同じポリフェノールだし、まあいいか。

最近、お前はどんな生活をしているんだと、気になっている人もいると思い、近況を報告しようと思う。

お米が切れたので、そして今から稲を育てるのは面倒なので、冷凍食品のエビピラフをレンジで温めて食べた。

ちょっと前に、このエビピラフを半分袋から出して食べたのだが、たくさんエビが入っていて、この商品は豪華だなあなんて思いながら食べたのだった。「エビピラフ」というより「エビカーニバル」を食べた気分だった。

そして、今日はもう半分を食べることにした。しかし、エビが一匹しか入っていない。この前はあんなにいたのに。わさわさ動いているのを、逃がさないように食べたのに。今日は一匹・・・。なんというエビの偏りだろう。前半にほとんどすべてのエビを出し切ってしまった、後半には1エビしか残っていないとは。

これでは「エビピラフ」を食べた気がしない。食べたのはただのピラフだ。ハンバーガーでいうとハンバーグを抜いて「アー」しか残ってないようなものである。

事前にエビの偏りを避けることはできなかつたろうか。昔から「エビの偏りはないほうがいいよね」という諺があるが、エビの偏りを避けることは、現代科学をもってしても難しいのではないかと思う。

なにしろ、半分出した段階では、もう半分にも同じくらいエビが含まれていると人間は錯覚してしまうのだから。

だが、絶対にエビの偏りを避ける方法がひとつある。一度に一袋食べるのだ。でもたぶん食べきれないから、エビが偏っても半分ずつのほうがいいな。

と、まあそんな生活をしている。

わざわざ5番街まで来なくていいように、どんな暮らしをしているのか前回は引き続き書こうと思う。

昨日、久しぶりにハンバーグを作った。出来はまあまあ。やはりハンバーグに関しては、手作りのほうが市販のレトルトのやつより断然うまい。

床にこぼれたひき肉を拾い集めて作ったので、たまに髪の毛が入っていたりしたが、それを差し引いても十分おいしかった。この際、手作りハンバーグの店でも開こうかと思ったくらいだ。

今日は昨日のタネの残りを凍らせておいたやつを焼いて食べた。昨日は、食べた後、おなかの調子が少しおかしくなったが、今日はよく焼いたので大丈夫だった。

そして、まだパン粉が大量に余っている。ハンバーグを作ると、できるだけ少ない量を買っても必ずパン粉が余るという法則がある（たしかそれが熱力学の第3法則だったと思う）。なので、近いうちに、またハンバーグ作ります。料理は短期間に同じものを何度も作るほうが上達するような気がするし。ハンバーグ以外にパン粉の使い道ないし。

僕にもし友達がいれば、作ったハンバーグを食べに来てもらいたいところだが、パン粉がなくなるまで、一人で作っては食べ、作っては食べ・・・ということになる見込み。

そんな暮らしをしている。

2009/10/24 「筋肉痛」

3日前に、わけあって、ビリーズブートキャンプ的な激しい運動をしたため、今日まで、ずっと筋肉痛が続いている。筋肉痛初日は、足が特に痛かったが、昨日は腹筋の痛みがピークだった。「腹筋にしがみつきババア」に執念深く、腹筋を両手で握られ続けているような痛みだった。走ることはできず、歩くのもキツかった。

しかし、今ようやく落ち着いてきた。筋肉は一度壊れると、治るとき、少し強くなるらしい。回復するとさらに強くなるこのメカニズムを「超回復」という。筋トレはこのメカニズムに基づいている。僕の体で、いま超回復が起こっていると思うと、なんとか痛みにも耐えられそうだ。完全に治ったときには、今まで僕のへなちょこ筋肉を馬鹿にしていた連中も少しは僕を見直すに違いない。ちなみに役人などが悪いことをしてやめさせられることを「懲戒免職」という。

2009/11/1 「深手」

1週間以上経つが、まだ、筋肉痛が完治しない。

いや、もうだいたい治ってるのだが、弾をよけようとして体を反らしたときだけ、腹筋が痛むのだ。筋肉痛も怪我の一種だから、相当な深手を負っていたんだなあと思う。

2009/12/4 「タウリン」

栄養ドリンクたちがよく使う口説き文句に「タウリン1000mg配合」というのがある。

中学の時の理科の時間、先生が「1000mgっていうと、多いと感じるかもしれないけれど実際は1gってことだからね。たったの1gなんだよ、でも1gって言うと少ない感じがするから1000mgって言ってるんだ。『タウリン1g』って言うより『タウリン1000mg』って言ったほうが多く感じるでしょ」などと言っていた。

ただ僕は「タウリン」などという、わけのわからない物質は「1g」と言われても、十分にその量の多さに驚く。なにせ一円玉と同じ重さだ。そんなにたくさんのタウリンを摂取しても大丈夫なのだろうかとすら思う。

例えば「ユンケルローヤル100」という商品の場合

ローヤルゼリー50mg

タウリン1000mg

ビタミンB1硝酸塩10mg

ビタミンB2リン酸エステル5mg

ビタミンB6 10mg

ニコチン酸アミド20mg

無水カフェイン50mg

とある。

このように圧倒的なタウリン。とても「たった1g」などいう気分にはなれない。

そんなことを感じながらも、いまだにタウリンの具体的な効き目については知らないまま、たまに栄養ドリンクを飲んでいる。

「正しい日本語を使おう」というような呼びかけは、古くからある。おそらく、古代ギリシャ時代からあるだろう。

そして、間違った日本語を使う人を見ると、鬼の首を取ったようにそれを糾弾する人をよく見かける。僕も、雑談師という職業柄、日本語には敏感だが、正しい言葉遣いにそれほどこだわる必要はないと思う。表現は自由であったほうがいいからだ。正しさにこだわってばかりいると、面白い表現が生まれにくい可能性が高まる。

例えば「『上を見上げる』は間違いだ」という人がいるかもしれないが、僕はそうは思わない。少なくとも表現としては正しいと思う。「見上げる」という言葉には目的語が欲しい。何を見上げるのか。ただ「見上げる」だけでは空なのか、チェ・ホンマンなのか、どちらなんだろうと聞き手は疑問に思う。でも話し手が、空でもチェ・ホンマンでもなく、見上げたのが、ただ「上」だったとき「上を見上げる」と言うのは聞き手に対しての優しさだと思う。

その場合「上を見る」と言うべきだという反論があるかもしれない。しかし、「見上げる」と「見る」は違う。「見上げる」は確実に首が動くが、「見る」は目線だけしか動いていない場合も含まれる。

「まだ未定」は間違いだという意見にも、僕は反対だ。「未定」は「まだ決まっていない」という「状態」である。その状態が「まだ」続いている場合だってあるだろう。そういうときに「まだ未定」という言い方をするのがなぜ間違いなのかのほうがわからない。

まだわからない人のために例をあげると、「ねえ、いつ奥さんと別れてくれるの?」「う〜ん? 未定だよ。これから考えるよ」一週間後・・・「奥さんと別れる日決まった?」「いや、未定だよ。そんなに早くは決められないよ」「え? まだ未定なの?」

このように未定の状態から時間がたっても、未定の状態が続いていれば「まだ未定」なのである。なにもおかしいことはない。

このように「重複」と呼ばれる、間違いとされている表現は、僕から言わせるとしかるべき表現であることが多い。

言葉は、意思を伝える道具であり、伝えたいことを伝えるという目的を果たせる言葉使いこそが「正しい」のであって、文法のようなあとから付けた理屈みたいなものに則って「正しい」かどうか決めるのはむしろ間違いだと思う。

前回の続きだが、別に僕はどんな言葉遣いだろうが構わないと考えているわけではない。

基本的には正しく言葉は使うべきだと思うし、嫌いなものもある。

女がよく使う「チョーうける」「かなりヤバいんですけど」みたいな、うわついたかんじのやつだ。

しかも「かなり」を「えなり」と同じ発音ではなく「いなり」と同じ発音をしていたりすると、最近の若いもんは、まったくと思う。「かなり」というときは、必ずえなりかずきを思い出すようにしてほしいものだ。

そういう言葉の使い方は、どこか「普通じゃつまらないから、面白くしよう」的な意図が見えるのだけど、そしてそれは共感できるのだけれど、いかんせん面白くない。面白いことを言おうとすると、ダジャレばかりになってしまうオヤジと同じで、センスがない。

内容のなさを、飾り付けでごまかそうとしている感じがするのである。携帯メールで、やたらたくさん絵文字を入れたりするのも同じ理由で嫌いだ。

はっきり言う。嫌いだ。顔文字とか、2ちゃんねる用語みたいなやつとか全部受け入れられない。

そういうものがあふれている昨今。生きにくいなあとしみじみ思うのである。

子どもの頃、よく、友達と一緒に校庭の地面に3×3の枠線を作って、そこに○とか×を入れていって一列揃えるというゲームをやったものだ。「○×ゲーム」っていうやつだ。

僕は、その当時「○×」におけるすべてのパターンを研究し、「○×六段」を名乗っていた。ただ、あのゲームも、ある程度知能が発達する小学校高学年くらいになると、何度やっても決着はつかない。いつも○も×もそろそろことなく終わってしまうのである。

そこで、僕が開発したのが、「○×アドバンス」である。

「○×アドバンス」は5×5の枠で行われる。ルールは元祖と同じように2人が○と×に分かれて交互においていく。すべて埋まった時点で○や×が3つそろっている箇所が多いほうが勝ち。一か所につき1ポイント。4つそろっている箇所は2ポイント。5つそろったらその時点でその人の勝ち。

これだったら、守りと攻めを考えながら、高度な駆け引きを楽しむことができる。

さらに枠を5×4にしたり、5×6にしたり、自由に変形させてもいいし、4つそろったら3ポイントにするなど、ルールをちょっといじっても面白い。

普通の○×に飽きた子どもが近くにいれば、この○×アドバンスを教えてあげてほしい。

2009/12/8 「おまじない」

新宿とかにある動く歩道に後ろ向きで乗って、足踏みをすると、なんだかムーンウォークが上手い人になった気分だね。

そんなわけで、とっても素敵なおまじないを教えちゃうよ☆

「気持ちよくお風呂に入るおまじない」

お湯を入れる前に、浴槽の内側をピカピカに磨いてみよう。すると、いつもと同じ温度のお風呂なのに、不思議となんだか気持ちいい感じがしてくるよ。

前から言おうとっていて、つい忘れていたことなのだが、今思い出したから言っておこう。

これだけはどうしても言っておかなければならない。今ここで言っておかないと、第2第3、あるいはもっと多くの犠牲者が生まれることになってしまう。

漫画喫茶に漫画を読みに行ったとき、リクライニング席を選んではならない！

これは警告だ。守らなかった場合の保証はできない。

漫画喫茶の店内は暗い。そんな中でリクライニングに寝そべりながら漫画を読もうとすればどうなるか。

そう。個室のライトは前方の机の上を照らすようについているわけだから、リクライニングで楽な姿勢をとろうとすれば、どうしても逆光になってしまう。開いているページは陰になり表紙にばかり光があたっている状態になってしまうのだ。

それを避けようとするば、うつ伏せのような形になるしかないのだが、いかんせんリクライニングシートだ。うつ伏せになろうとすると、エビ反りのような体勢になってしまう。こんな体勢を長時間キープできるのは、エビくらいのもんだ。でもよく考えると、エビは体を反らしているのだろうか。内側に丸めている印象のほうが強いんだけど。

そんなことはどうでもいい。問題なのは「実るほど首を垂れる稲穂かな」という俳句があるけど、稲穂はどっちが前かわからないから、実はどどんどん体を反らせているのかもしれないじゃないかということだ。

そうではなくて、リクライニングシートは楽なイメージがあるかもしれないが、読書には向かないということ。それでも読もうとすれば、結局普通に座って読むことになるのだけど、リクライニングだと変にお尻が沈んでしまい、普通の椅子のほうがむしろ楽だと気づくだろう。

あと、リクライニングはパソコンにも向かない。背もたれに寄りかかったら、キーボードに手が届かないから。向いているのは、本当にただ寝るときだけだろう。

お勧めはフラットシートとか、座敷席みたいなところ。いろいろ姿勢を変えながら本が読めるし、寝る時も寝返りが打てる。読むにも寝るにも、パソコンにも対応できる。

パソコンの文字入力、大抵の人がローマ字入力を用いている。ローマ字のほうが、使うキーが少ないから配置を覚えやすいのがその理由だろう。

小学校に教育実習に行ったとき、子どもたちにパソコンの使い方を教え、同時にローマ字も教えた。覚えたローマ字をパソコンの文字入力で使おうということだ。つまり、現代においては小学校教育の段階でローマ字入力が推奨されているのである。

ただ、そうなってくると、かな入力を極めたらすごくない？という考えがふと浮かぶ。

キーの位置を50音すべて記憶することさえできれば、タッチ回数が少ない分ローマ字より速いはずだ。

実際にかな入力がすごく速い人もおそらくいるはずなのだ。ローマ字のほうが、圧倒的多数でメリットも大きいと考えられているなか、かな入力で驚くべきスピードでキーを打つ人がいたら、それはもはや曲芸の世界という感じがする。そんな人を見てみたい気がする。

自分も人を驚かすような芸を身につけたいという人には「かな入力」をお勧めしたい。

スーパーに行ったとき、必ず買うものがある。

S & Bのペペロンチーノの pastaソースである。2口コンロのひとつでスパゲッティをゆでながら、もうひとつのコンロでニンニクやとうがらしをオリーブオイルで炒めておいて、炒めあがったら、それを流しに捨てて、ゆで上がったスパゲッティをお皿に乗せた後、そのソースを混ぜるだけでペペロンチーノが簡単に作れてしまうという、お手軽アイテムである。

世の中何が正しくて、何が間違いなのか、考え方や立場によって違っていて、答えは見つからない。でも、ニンニク料理はものすごく上手いということだけは真実だ。

しかも名前がペペロンチーノだ。「ペペロン」で始まるスパゲッティはペペロンチーノ以外に考えられない。「ビヨン」で始まる歌手がビヨンセしか思い当たらないように、「ドビュッ」で始まる作曲家がドビュッシーしか思い浮かばないようにである。

これを開発したS & Bに、神のご加護があればいいと思った。例えば大編成の弓隊が矢を雨のように放っても、眼を閉じて微動だにしないS & Bに、一本も当たらないとか。

ことわざには、それを言われると「あー、確かにそうだな」と納得させる力がある。

例えば「二兎追うものは一兎も得ず」。確かにそうだなあ、と思い当たることは誰にでもある。テレビを見ながら外科手術をしているとき「先生！『二兎追うものは一兎も得ず』ですよ」などと言われると、確かにどちらにも身が入らないから、一つのことに集中しないとなあと思ったりする。

このように、ことわざによって納得させられ、じゃあテレビを消して手術をしようとか、おなかを閉じてテレビを見ようとか、行動にも変化が現れたりすることがある。

だけど、どうも納得できないのが、「あたって砕けろ」である。砕けたくないではないか。それを聞いて人は「よしやってみよう」と思うのだろうか。どうも説得力がないような気がする。

もっと「それならチャレンジしてみよう」と思えるような、ポジティブな感じにはならなかったのだろうか。まあ、これからの「あたって砕けろ」に期待しよう。

昔の話。どこの局とは言わないが、夕方のニュース番組で、中学生が学校のウサギを刃物で殺害したという事件を紹介していた。

その事件に対してコメンテーターのK村太郎さんが、「最近の子どもは、ゲームなどの影響で感性が麻痺しているのではないか」といったような、ありがちなコメントをしていた。

次の瞬間、番組はニュースのコーナーを終え、楽しい話題のコーナーに切り替わる。そこでは屋外で板前さんがマグロを包丁でさばき、それを見ている人が「おいしそう」と言っている様子が映っていた。いわゆる「解体ショー」である。

何だこれは！なんでウサギはダメで、マグロはいいんだ！？

もちろん僕だって、ウサギは食べないし、マグロはおいしく食べる。でも、刃物で生き物の体を切っているのは同じではないか。

僕は、疑問と同時に怒りも覚えた。ウサギを殺したらダメなのは当たり前で、マグロを切るのは素敵なショーなのは当たり前という感覚を、何の疑問もなくテレビは押しつけてくるんだということに。

もし、ウサギを殺すことに何のためらいも持たない人がいたとしたら、人はその人を非難するけれど、それは本当に悪いことなのだろうか。牛や豚をためらわず殺す人は許されるのだろうか。マグロを切ることを「かわいそう」だと思える人がいたらどうなのだろう。

いろいろ考えてしまうが、一言で言えば「勝手なもんだなあ」。食べるものと、そうでないものを分ける人間も、この番組の作り方も、である。

風邪気味だ。

昨日は鼻水をだらだらさせながら眠りについた。そして、起きたら泣くほど鼻が痛かった。詰まっていた鼻が通ってはいたが、引き換えに鼻で水をはがぶ飲みしたときみたいに痛くなっていた。

もしかして、寝ている間にあの鼻詰まりを、鼻で息を吸い込むことで無理やり治したというのだろうか。だとしたら恐ろしい。ちょっとやそっとの鼻息ではあの詰まりをとることはできないはずだ。

寝ている間に、つまり無意識にそんな大仕事をしていたんだらうか。だとしたら人間の体ってすごい。だが、主の許可なく、鼻を痛めてまで詰まりを取るなんて機能は聞いてない。

ひょっとしたら、人間は眠っている間に、自分で思っている以上の何かをいつもしているのかもしれない。

風邪がひどくならないように、あとでエスタックイブを飲んでおこうと思う。

「イブだけにね」と思った人がいたら、あなたの将来生まれてくる娘は成長するに従い、けつあごになります。エスタックイブを飲むのは、それしか持ってないからです。

新しい手提げかばんが欲しい。

ずっとショルダーバッグを使っていたが、そんなにたくさんの物を入れるわけではないので、もう少しお手軽感があったほうがいい。

それに、ショルダーバッグだと、もしアメフトの選手がボールと間違ってしまったら、僕は首にひもを引っかけたまま引きずられてしまう。

僕の使っているショルダーバッグ（厳密には、肩掛け紐のついたポストンバッグだけど）は、ラグビーやアメフトの練習用ボールと同じ茶色だから、アメフトのユニホームを着た人と街ですれ違うたび、ひやひやしてしまう。早くお金持ちになって手提げを買おう。

2010/1/7 「50円」

昔からずっと言っているのだが、50円玉のデザインを変えるべきだ。

横から見ると、100円玉と見わけがつかないからだ。

正面から見れば、穴があいているので一発でわかるが、財布の小銭入れを覗いたとき、いちいち取り出してみないと、100円なのか50円なのかわからない。

100円玉だと思って取り出したら50円だったとか、そんなことがしょっちゅうあって、精神衛生上よくない。

50円も100円も横から見たとき銀のギザギザだからいけないのだ。

50円のほうは、色をショッキングピンクにするとか、つるつるにするとか、ブ厚くするとか、四角くするとか、いつも煙が出てるようにするとかして欲しい。

そうすれば、全体的にお金を払うときにもたもたすることが少なくなり、支払いがスムーズになり、景気も良くなるだろう。

鳩山さんお願いします。

2010/1/19 「食パン」

昨日、食パンを買った。

6枚切りのタナから一つとって買った。

でも、今日朝起きて、食べようとしたら、なぜか8枚切りになっていた。つまり、一夜のうちに、6枚切りの食パンが、8枚切りに変わってしまったのだ。不思議なこともあるものだ。

そんな不思議体験はさておき、8枚切りの食パンを作っているパン屋さんは、切るとき必ず「八つ裂きにしてやる」と言いながら切ってるんだらうな。

外国人に日本語を教えようとする人の多くが、間違っただ日本語を教えている気がする。

何が、間違っているかというと、イントネーション。

たとえば「サムライ」。なぜか多くの人が「ラ」にアクセントをつけて「サムラーイ」みたいな発音で外国人に伝えようとしているのである。これはおかしいと思う。サムライは平板で読むのが普通なのに、なぜわざわざ「サプライ」みたいなイントネーションで伝えるのか。おかげで、ほとんどの外国人が「サムラーイ」が正しい発音だと思っているのではないか。

自分の名前すら変なイントネーションで教える人が多い。「マイネーム、イズ、タナカ」というとき「タナカ」の「ナ」にアクセントをつけたりしている（関西の人ならいいのだけど）。

教えるなら正しく教えるべきなのだ。

同じ理由で、赤ちゃんに話しかけると「～～でちゅね」みたいな赤ちゃん言葉になるのもおかしいと思う。正しく伝えるべきだ。赤ちゃんといえども「馬鹿にするな」と思っているかもしれない。

介護の必要な感じのお年寄りに対して、子どもをあやすような話し方をするのもどうかと思う。

と、最近の雑談は、どんどん僕の変なこだわりや主張に偏ってきているので、明日からは元に戻そう。

「術」という字の右に「ト」って書くとなんか「ポテト」っぽいよね。のような。

2010/1/25 「あるあるネタ」

「てもちぶさた」という言葉を聞くと、「ちぶさ」という部分に反応してしまうよね。

2010/1/27 「五輪」

そういえば、今年、冬季オリンピックがあるらしい。なんだか、まだ実感がない。あと4年くらい先の話だと思っていた。まさか今年だったとは。

ワールドカップもまだまだ先のことのような気がする。

そういうものほど、「まだまだ先」と思っていると、いつの間にか通り過ぎているもの。「ワールドカップ楽しみだね」という話題は、すぐに「ワールドカップ残念だったね」という話題に変わっているものだ。人生って速いよね。

そういえば、もう1月が終わっちゃいそうだ。

2010/2/7 「4 : 3 ?」

アクオスを購入してからというもの、横に長い16 : 9の画面のテレビ番組や、映像にすっかり慣れてしまって、4 : 3の画面を見ると、違和感を感じるようになった。

「4 : 3」と聞いても「え？本当に4 : 3？」と思う。

なんとなく「5 : 4」くらいなのではないかという気がしてならない。もしくは「52 : 39」くらいに見える。

以前はこれが当たり前だったのに。

昨今、夏目漱石の1000円札を、「変わった柄の油とり紙だなあ」と思ってよく見たらお金だったという経験は誰にでもあると思うが、まさにそんな感じだ。

どちらも、人間の、新しい環境に適応する能力の高さを物語る事例といえる。

2010/3/10 「ひねれる？」

簡単なことをたどえて「赤子の手をひねる」っていうけど、赤ちゃんの手をひねるほど、良心にさいなまれて、できそうにもないことはないと思う。

2010/3/28 「負われてみたのはいつの日か」

「赤とんぼ」の歌、あるじゃん？「ゆーやけ こやけーの」てやつ。

その後の「あかとんぼー」の「あ」から「か」に行くときの落差が急すぎないか？

いつだったか、海援隊の『贈る言葉』の「ことば」の「こ」から「と」に行くとき下がりすぎだと、ここに書いたが、『赤とんぼ』はそれ以上の大暴落だ。逆『大都会』だ。

2010/4/1 「今日学んだこと」

QWERTYって言うでしょ？パソコンのキーボードとかのキー配列のこと。

「クアーティー」って読むらしい。「クワーティー」でもいいらしい。ということは「あ」と「わ」の間くらいの発音でごまかして読むくらいが、ちょうどいいんじゃないかな。

いままで勝手に「クウェルティー」かなあ、と思っていたので、恥をかく前に調べておいてよかった。

ところで「クワーティー」って言うと、ちょっと桑田さんのあだ名っぽいよね。

2010/4/1 「思い出ファイル」

毎年、年度が変わると「思い出ファイル」も新しくなる。「思い出ファイル」は、僕が大学に入学した年からずっと続いている風習だ。

まず、A4サイズ用のクリアファイルを用意する。できるだけ高級な、しっかりしたものがよい。そして、例えば旅行に行ったら、旅先のパンフレット、立ち寄った店のレシート、そのとき撮った写真などを、空き巣に入ったら盗んだお金の一部を、映画を見に行ったら、そのときのチケットなどを、クリアファイルにしまっていくのである。

そうして一年分の思い出を、一まとまりのパッケージにしてしまう。

そうすることで、いつの思い出だったか、わかりやすくなるし、それ以外のパンフレットなどは、思い切って捨てることもできる。学校などで毎日のようにもらうプリント類なども、思い出ファイルに入れたもの以外は処分してしまえばいい。

これは当時の大学の先輩からも好評をいただいたので、一応おすすめしておこう。

2010/4/14 「携帯電話を変える」

携帯電話を変えた。

いままで a u を使っていた。ずっと、ずっと。でも、僕はなんとなく違和感を感じていた。

——僕は本当に a u なのだろうか・・・。

時間が経つにつれ、自分が a u であることの違和感は大きくなっていった。

誰にも相談できずに、一人で悩む日々。だが、土屋アンナが現れたかと思えば「ハイジもビックリバビヨン」などと意味のわからないことを言っている CM を見たとき、はっきりわかった。

そう。わかったのだ。自分の本当の気持ちが・・・。

—— a u とはもう別れよう。

所詮、a u と僕とでは、住む世界が違うのだ。このまま、無理にこの関係を続けたって、きっと誰も幸せにならない。

だから・・・

続く

ドコモにしよう。

僕の周りの人を見ても、素敵な人は大抵ドコモを使っている。

好きな有名人を挙げろといわれたら、真っ先に挙げるのは、爆笑問題、三谷幸喜だが。爆笑問題はドコモのCMに出ているし、三谷さんも清水ミチ子さんと一緒に「ドコモメイキングセンス」という番組をやっている。

「ドコモメイキングセンス」では冒頭でいつも「This program is bought you by docomo」と言うナレーションが入る。日本的に言うと「ドコモの提供でお送りします」ということなのだけど、直訳すると「この番組は、ドコモがあなた（たち）に買った（買ってあげた）ものです」ということになる。日本語にすると恩着せがましい気もするが、「そっか、僕のためにお金を使って、買ってくれたんだ」と思うと、妙に感謝の気持ちが沸いてくる。「presented by」という表現もあるが、僕の中ではありがたさは「bought」の方がはるかに上だ。

それに、ドコモといえば堀北真希さんだが、僕は結婚相手は何なら堀北真希さんでいいやと思っている。

こういった、些細なイメージの積み重ねによって、ドコモにすることにしたわけである。

続く。

もう一つ、携帯電話をドコモにした決定的な理由があるのだけれど、それが「iコンシェル」というサービスだ。

このサービスの詳細を説明するのはとても面倒なので、うそを教えると「iコンシェル」というのは携帯電話の画面にふんどし姿の男たちが御輿を担いでいる映像がたまに映るサービスである。

まあ、とにかくそれを利用することで、脳内秘書を携帯電話に移すことができると考えたわけである。

誰の頭の中にも「脳内秘書」がいると思う。「今日の予定ってどうなってたっけ？バイト何時からだっけ？」と頭の中で問いかけると「今日もおやすみです」みたいに答えてくれる、眼鏡をかけてスーツを着ている女の子がいるはずだ。

そういうと、「眼鏡でスーツを着てるってのは、お前のだろ。脳内秘書は人によって違うんだから」と、ツッコミを入れたい人もいるだろう。確かに人によっては40代のナイスミドルなおじさんだったり、自分の片思いの相手を、そのまま使っている人もいる。

そういうスケジュールとかを相談する頭の中の話し相手を、携帯電話という具体的なものに託すことができたら便利だ。おそらく、そういうコンセプトで作られたのが「iコンシェル」というサービスなのである。前に4月から秘書を雇うと書いたが、それはこれのことだ。

これ以上書くと、本気にされそうなので、つまり、本当におかしい人だと思われるので、話題を変える。

そうして、携帯電話を変えたのだけれど、新しい携帯電話を手に入れたら、きっと幸せな気分になるに違いないという予想は見事に外れた。

使い方がわからないし、いろいろ面倒くさい。はじめはストレスだらけだった。

僕が買った機種は「SH-03B」というやつだ。QWERTYキーを搭載した、「ドコモPROシリーズ」の一機種。「QWERTY」の読み方はいつもこの雑談を読んでいれば知っているよね？

5. 3メガピクセルという、ここ15年で、使い捨てカメラ2個分くらいの写真しかとっていない僕にとって、無駄に画素数の高いカメラもついているので、これからは、写真も積極的にここに載せていこうと思う。

2010/4/19 「ものと思い出」

どんなものにも思い出はある。

先日、洗った食器を入れておく水切りカゴを捨てた。100円ショップで買ったものだったが、だいぶ汚れていたので、買い換えることにしたのだ。

この水切りカゴは網状のカゴ部分と、水を受けるトレーの部分を重ねてセットにして使うのだが、100円ショップで買うとき、この2つは別売りだった。

僕はこれを買う時、レジの店員さんが、2つセットで100円だと勘違いしてしまわないか心配だった。なので、気を利かせて、2つを重ねないように少しずらしてレジに持っていったのだ。

するとその女の店員は、鬼の首でも取ったように「こちらは別々の商品になりますので、1点! 2点!で、210円になります!!」と力強く別商品であることを強調した。まるでこちらが分かっているかのように。自分はだまされないぞとでも言わんばかりに。いったいこの仕打ちは何なのだろう。僕が何をしたと言うのだ。

そんな、思い出の水切りカゴを捨てて、新しいのを同じ店に買いに行った。

レジに持っていくとき、あのときの悪夢がよみがえる。しかし、一応、前と同じように、2つを少しずらして差し出す。一瞬、緊張が走る。

「100円商品が2点で210円です」

レジの若い男はさらりと僕に告げた。

なんていい店員なんだろう。

その「うさみ」さんという若い男の店員に深い感謝の気持ちを抱きながら、水切りカゴセットを持って、僕は店を後にした。

2010/4/22 「いなせだね」

いままでこの雑談では海援隊の『贈る言葉』の「こ」から「と」に行くときや、童謡『赤とんぼ』の「あ」から「か」に行くとき下がりすぎだと散々述べてきた。

そうすると、ラッツアンドスターだかシャネルズだかの『め組の人』の出だしの「いなせだね」の「い」から「な」にいくときも下がりすぎだという意見も出そうなので前もって言っておくと、そのあと「だ」のところでもまた急上昇するので、これは別に問題ない。

ただ、これをカラオケなどで歌うときはあせりは禁物である。「早くキメてやるぜ！」とあせるあまり、「いなせだね夏を **め！！** 」とやってしまいかねない。

そうなったときの周囲の反応は想像に難くない。みんなあなたと目を合わさないように、そそくさとタッチパネルのリモコンで次の曲を探し出したり、もう空っぽの飲み物の、氷の解けた分だけストローでずずず吸ったりするだろう。気をつけたまえ。

2010/4/22 「大人のいすとりゲーム」

電車の座席に座ることって、パーソナルスペースの問題などと複雑に絡んできて、結構面倒だ。

例えば7人がけシートがあったとして、車内が空いていて、誰も座ってなければ、まず両端が埋まる。7人がけの座席を左から順に①～⑦とすると、まず①と⑦が埋まるわけだ。

そこまではいいとして、次に来た人が問題だ。ある程度距離をとって座りたいという心理は分かるが、次に来た人はここでど真ん中の④に座ってはいけないと思う。なぜなら、さらにその後に来た人は、どこに座っても誰かの隣に座らなければならない上に、誰の隣に座るか選ばないといけないからだ。

つまり7人がけなのに、3人座った段階で、ものすごく座りにくい状況になってしまっている。

だから、3人目は④ではなく、③か⑤に座るほうがよいのだ。例えば③に座ればその次の人は、迷わず⑤に座れる。

だから僕は、もし3人目で④に座っている人を見たときは、その人の隣の③か⑤に座ることになっている。そうすることで、その人に「もう一つ隣に座っておけばよかった」と後悔させることができるかもしれないからだ。

いや、まあ、そんなこと、どうでもいいじゃないけどさ。

2010/4/24 「あなたもバイリンガル気分♪」

日本が世界に誇る2大人物といえは当然、平井堅と法然だが。「平井堅法然」と続けて言うと、なんだかドイツ語をしゃべった気分になるよ。

2010/4/30 「ブログっぽく書いてみよう」

急にリゾットが食べたくなかったのが2日前のこと。トマトスープで煮込んだみたいなやつ。

一度食べたくなったら、食べるまで食べたい気持を持続させる力が僕にはある。

イタリア料理のお店に行けば食べられるかなと思い、行ってみたが、そこはスパゲティー専門で、ごはん料理はなかった。

それは残念だったが、せっかくなのでトマトのスープスパゲッティーを注文した。

ドリンクとサラダをつけて、ちょうど1000円だった。

レジで1000円札を出した。初めてきた店なので、記念にレシートを貰おうと思ったら、店員さんが、僕の渡した1000円札と一緒に、レシートを差し出してくれた。しかも「ごゆっくりどうぞ」という言葉とともに。

まさかの100%キャッシュバックシステムである。どうりで混んでるわけだ。

そのあと、間違いに気付いたその人は「すみません」と我に返し、レシートだけくれた。疲れていたのだろうか。かわいそうに。

リゾットはまた次の機会だな。あと、湯豆腐とか、餃子もたべたいな。

2010/5/8 「メモ」

指切りげんまんの「げんまん」は「拳万」と書いて、「守れなかったらグーで一万回殴ってもいいぞ」的な意味らしい。忘れないようにメモしておこう。

ちなみに「メモ」は「メモランダム」の略だよ。

2010/5/25 「不思議キャラ」

マリアナ海溝のいちばん深いところにはゴム栓がしてあって、それを引っこ抜くと海の水が全部抜けていくようになってるんだよ。

もちろんちょっとやそつとのカじゃ抜けないんだけどね。力士が3人くらいで引っ張らないと無理なの。

2010/6/1 「ていしゃつ」

スナフキンTシャツをネットで購入した。

サイズがS、M、Lから選べるのだが、同じ値段なら大きい方が得だと思い、Lにした。



条件付けには、古典的条件付け（レスポナント条件付け）と、道具的条件付け（オペラント条件付け）があるけど、どっちがどっちだったっけ？と、なってしまう経験は、誰にとっても日常茶飯事だと思う。

これを間違えるのは、「専」の右上に点を打ってしまうくらい恥ずかしいことなので。ここであらためて、おさらいしておこう。

古典的条件付けのほうは、いわば条件反射である。パブロフの犬で有名なやつだ。

生まれて初めて「都こんぶ」や「シゲキックス」のパッケージを見た人がいたとしよう。彼は「別段なんてことのない箱や子袋だなあ、私がこれを認識できるのは、これに光がぶつかり、跳ね返った光が私の目にぶつかるからなんだなあ」と思うだけだろう。

そのあと、都こんぶやシゲキックスを食べるとありえない量の唾液が出る。これは無条件反射である。

すると、どうだろう。彼は、後日コンビニで都こんぶやシゲキックスのパッケージを見ただけで、唾液が出てくるのだ。パッケージと唾液を出すという機能、関係ないものが結びついてしまう。これが条件反射。

なぜ、これが「古典的」条件付けなのかわからないけど。

一方、オペラント条件付けは、ある行動に対して、いい刺激が返ってくると、その行動の頻度が増える（あるいはその逆）という条件付けである。子どもを褒めたり叱ったりするのは、この条件付けを利用し、大人の思うとおりに操ろうという作戦である。利用できる＝道具的と覚えておけばわかりやすい。

確かに用語的には覚えにくいけど、古典的条件付け＝刺激に対する反応⇔オペラント条件付け＝自発的行動という対比は頭に入れておきたいところだ。

ネットカフェに来ている。

なぜ来ているのかというと、鍵をなくして、家に入れないからだ。

今日、美容院に行って、大抵の女の子がクラっとなってしまうくらいかっこよくなったのはいが、時間がかかってしまい、バイトに遅れそうだった。美容院から、いったん家に戻り、家を出て、鍵をかけた後、バイト先までダッシュ。整えた髪型は崩れてゆき、いつものさえない僕に戻っていく。

その道すがら、何かが落ちた音が聞こえたので、見てみたら、バイトで使うボールペンだった。急いでそれを拾い上げ、再び走ったのだった。

バイトが終わり帰宅すると、鍵がない。いったんバイト先に戻って事務所を探してみるが、見当たらない。

となると、あの時、ボールペンと一緒に落としている可能性もある。たぶん鍵はボールペンと同じポケットに入れていたと思う。チャックもついていないので、ボールペンが落ちるほど走っていらなら、鍵も落ちたと考えるのが自然だろうと思い、バイト先と僕の家の間道を探してみたが、やはり見つからない。

探しているうちに、どんどん雨が強くなってくる。しかも夜なので暗い。

あわてて家を出たので、携帯電話も家の中に置いてきた。

もういい。疲れた。今日は朝早く起きたし、バイトも頑張ったし。疲れたよ。お金ならあるから、休ませて……。ということで、ここにいる。

ネットカフェには、結構たくさんの客がいる。僕と同じように、鍵をなくして家に入れなくなったのだろう。ダメなのは僕だけじゃないんだ。

2時近いし、とりあえず寝る。

落としたのだとしても、行動範囲はきわめて狭かったのだから、明るくなってから、もう一度よく探せば出てくるかもしれないし、交番などに届いている可能性もある。明日になれば不動産屋さんとも連絡も取れると思う。

前回のあらすじ

鍵をなくして、アパートの部屋に入れなくなった。雨の中捜索したが、見つからなかったので、ネットカフェに一泊。一体、鍵は誰が食べてしまったのだろう？

不動産屋さんに連絡したところ、保険がきくので、無料で部屋のドア、開けてもらえるらしい。

さっそくその方向でお願いしたら、やがて鍵開けの達人がやってきた。

アバカムの呪文を見るのは初めてだなあと期待したが、その男は、呪文は使わず、ドアののぞき穴のレンズをとりはずし、その穴から、途中で直角に折れ曲がった棒をさしこみ、内側から鍵のつまみを回す方法でドアを開けてくれた。

でかした。ご苦労だった。無料で来てもらったので、その人に缶コーヒーをあげた。もちろん彼は別のところからお金はちゃんとももらえるのだろうけど、こちらの気持ちとして。

今回の教訓。鍵と財布と携帯電話は落としたり、なくしたりしない方法と、なくした場合の対策をあらかじめ考えておいた方がいい。まあ、あとでいいや。そのうちやれば。

2010/6/7 「あなたにとって私もそうでありたい」

日付変わって、今日、僕の誕生日だ。

レミオロメンの歌でもおなじみの「6月7日」だ。同じ誕生日の主な有名人に矢部美穂などがある。

何事もない誕生日を毎年過ごしていたので、今年は何か変わったことでもやろうかな。

2010/6/7 「速報」

同じ誕生日の有名人、調べてみたら矢部美穂さんの他にも岸部四郎さんがいました♪

2010/6/9 「好きな数字」

僕の好きな数字は2と4だ。

なんかスマートで知的な感じがしていい。

「8」は確実にデブキャラだと思う。曙が好きな数字は8に違いない。

「3」とか「6」もポッチャリ系だと思う。性格はよさそうだけど、かっこよくない。

「7」はちょっとかっこよすぎだと思う。キザで嫌味な感じは誰もが感じていることだと思う。

「0」は名前負けしてる。

「5」は体育会系の、燃える男みたいな感じでしょ？めんどくさい。つきあいたくない。

「1」と「9」はまあ普通。

というわけで、がんばれ「2」と「4」

生きていればイライラしたいときが、誰にでもあると思う。

そういうときは電流イライラ棒をやるのが一番なのだが、家の中にこそあれ、外に出ても、なかなかイライラ棒がないのが日本の現状だ。

そういう人でも簡単にイライラできる方法を考えた。いつでもどこでもできて、道具も必要ない。

まず、右でも左でも手を出してみしてほしい。

で、小指と中指をくっつける。そうすると輪っかができるでしょ？その輪っかに薬指を入れたり出したりしてみよう

小指と中指はくっつけたまま。

ほら、なかなかうまくできなくてイライラするでしょ？もう片方の手で押さえたりしたくなるでしょ？

イライラして、自分の指を折ったり切ったりしないように、やりすぎに注意しましょう。

2010/6/14 「試合」

ワールドカップのカメルーン戦が本日あるらしい。

僕の予想では6 - 3で日本の勝ちである。理由はそんな夢をタベ見たから。

まず試合開始早々、日本が3点入れる。岡崎が入れる。

その後追加点を加え、なんだかんだで6 - 1になる。

そこで、カメルーンが、ワールドカップ中一度だけ使える「2点もらえるカード」を使って3点差に追い上げるが、結局6 - 3で試合終了。

もしこの通りになったら、僕は予言者になろうと思います。

2010/6/25 「ヨーデルが鳴りやまない」

『ヨーデルのすべて』というCDを借りた。きっかけはワールドカップの日本戦で日本国歌である『焼肉ヨーデル食べ放題』が演奏され、選手たちが、胸に手を当てて口ずさむ姿に感動したからだ。ズラリと並んだ選手たちが、高い声で「レババラレババラレババラカルビも焼きほーだい」と歌う、その真剣で精悍な表情からは、試合への熱い意気込みが伝わってきて、思わず胸が熱くなる。

ヨーデル。楽しい。すごく楽しい。今度、フジヨーデルフェスティバルに行こうかな。

ほうれん草の「ほうれん」はネパールのこと。

アシカとオットセイとアザラシの違い。

アシカ・・・手が長い、耳たぶがある、海ガメみたいに手で泳ぐ。

オットセイ・・・アシカの小さいバージョンみたいなかんじ。

アザラシ・・・耳は穴があいてるだけ、手が短くはって進む、後ろ脚で泳ぐ。

2010/7/13 「スーパーボールの実のこと」

すごく小さかったころ、スーパーボールの実で遊んだことがある。

保育園の卒園前後のことだったと思う。卒園式の直後だったかもしれない。草むらのような場所に、ちいさな紫の実をつけた植物が生えていて、誰かおにいさんの人が「これはスーパーボールの実だ」と教えてくれた。

その実を一粒取って、紫の皮をむくと白いけどほんの少し緑がかって透き通った中身が出てくる。ちょうどブドウみたいなかんじだ。ただ、ブドウよりずっと小さくて、BB弾くらいの大きさだった。

皮をむいたそれをアスファルトにたたきつけると、ポーンポーンと、本当にスーパーボールのようによく弾む。

今となっては誰だかわからないそのおにいさんの人と、僕とクラスメイト達はその実でしばらく遊んだ。

おもしろかったので2～3個持って帰った。でも、そんな小さな実だからすぐどこかにいってしまう。

またいつでも取りに行けばいいやと、なんとなく思って1～2年過ごし、ふと、またあれを取りに行こうと思ってその場所に行ったが、その実をつけた植物は見つからなかった。

その後もそれと似た実をつけた植物を見ると、皮をむいてみるが明らかにそれとは違った。

結局、今日までスーパーボールの実で遊ぶことは二度となかった。

一体あの実は何という植物の実だったのだろうか。

僕と同じ1982年生まれの人で、もっとも有名なのは北島康介かもしれない。

北島康介といえば、競泳パンツ一枚で「チョー気持ちいい」と叫んだことで有名な人だ。

彼の誕生日は9月22日。「クニニ帰ります」と覚えておくと覚えやすい。

北島選手以外に、1982年生まれの有名人にはどんな人がいるのか調べてみる。

俳優では、藤原達也、成宮寛貴、塚本高史、瑛太、小栗旬など。女優では深田恭子、加藤あい。歌手では小柳ゆき、大塚愛、倉木麻衣。a p mのCMの人では、安田美沙子。お笑いでは、ザたっちのふたり、とかオリエントラジオの中田あっちゃん。スポーツ選手では、アサファ・パウエル、タイソン・ゲイなどがいるらしい。もちろん他にもたくさんいる。

ただ、僕の中では北島康介と同じというのが一番誇らしいとだけ言っておこう。

北島康介君について書いたので、同じ北島ファミリーの北島三郎さんについても調べてみた。ウィキペディアで。

本名は大野穰（みのる）。出身地北海道の知内町。そこは青函トンネルを抜けるとすぐのところらしい。

作詞作曲の際には「原譲二」という名前を使っていて、その名前で、自分の曲やファミリーの人に提供する曲を作っている。つまり我々としては、原譲二という名前を聞いたらすぐにサブちゃんの顔が思い浮かぶように厳しく訓練する必要がある。

そして、北海道函館市末広町には北島三郎記念館が建立されている。何の記念か知らないが、はるばる函館に来たぜっていうときには行って見たらいいんじゃないだろうか。

北島三郎さんの誕生日は10月4日である。

「え？3月26日じゃないの？」と驚くかもしれないが、10月4日である。確かに普通は3月26日だと思ってしまうものだ。

裏切られた気分だが、きっと銀行口座の暗証番号は「さぶろお」で「3260」だと思う。あれだけの御所なので相当貯め込んでいるはずだ。

いいなあ。覚えやすい番号が作れる名前的人はうらやましい。薬師丸ひろ子さんとか生稲晃子さんとか。4けたの番号って覚えておくの大変なもの。

2010/7/25 「小椋佳さんの作詞・作曲」

実家から送られてきた野菜ほど 処理に困るものはない

名曲『シクラメンのかほり』の冒頭部分である。思わず口ずさんでしまった人もいるのではないだろうか。

実家から、頼んでもいないのに、じゃがいも、なす、いんげん&とうもろこしが送られてきた。人間年をとると野菜を作りたくなるらしく、最近、野菜を作っているらしいのだ。

困った。普段料理を作る習慣がない僕にとって、荷が重いばかりだ。経済的観点からみれば、捨てる問題はないが、もったいないおぼけが出るリスクを考えると、捨てるのは抵抗がある。

いつまでも置いておけば食べられなくなるから、できるだけ早く処理したいものだが、気は進まない。ちょうどそんな気持ちを歌った『シクラメンのかほり』には共感することこの上ない。

とりあえずとうもろこしをゆでて食べてみた。味が無い。

じゃがいも、なす、いんげんで味噌汁でも作ろう。確か冷蔵庫に昔買った味噌があったはずだ。

確認してみると、味噌の賞味期限は2009年11月14日。いまはまだ7月だから問題はない。

というわけで、味噌汁を作って食べた。あまりおいしくない。まだ、野菜は半分以上残っている。憂鬱だ。

なすに関しては、よく割り箸をさして足をくっつけて動物に見立てた作品を見かけるけど、あれでも作ろうかな。うまくできた人が得意になって、家の外とかにおいて見せびらかしたりしてるけど、あの程度の作品なら、僕でも作れそうだ。明日にでも作って、道端に置いておこうと思う。

2010/8/1 「2大悪夢」

歯がボロボロになる夢をよく見る。

粉々に砕けて、口の中がじゃりじゃりするのだ。それをぺっぺと吐き出すが、いくら吐いても砕けた歯のかけらが口の中に残っている。

そういう夢を見ているときは、実際に、寝ている間、歯を強くかみしめているようだ。目が覚めた時、枕であごが圧迫されてたりすることに気づく。そのあと、歯がちゃんとあることを確認して、初めて「夢でよかった」と喜びをかみしめる。その歯で。

ハゲる夢と並んで、僕の2大悪夢である。僕が『夢十夜』を書いたら、六夜分くらいはその2大悪夢で埋まりそうだ。これを超える悪夢があるとしたら、それはおそらくハゲて歯がボロボロになる夢だろう。

2010/8/2 「2倍速」

ウォークマン（カセットではなくデジタルなやつ）で、録音したラジオをよく聴いている。

最近、ウォークマンに最大2倍速で再生できるスピードコントロール機能が付いていることに気づいた。つまり、ラジオの人が、がんばって2倍速でしゃべってくれるのだ。

2倍速。何の問題もなく聴きとれる。それにしても、2倍速でしゃべる人の滑舌の良さにびっくりだ。人間業とは思えない。さすがはプロ。これによって、ラジオを聴く時間を大幅に短縮することができる。

しかも、2倍速で聴くということは速聴効果が得られる。速聴によって、脳が刺激されて、なんか頭がすげー良くなるみたいなチラシを見たことがある。科学的にも効果があると大学のエライ先生もコメントしていた。どうして効果があるのかは、まだ頭が良くなっていないからわからないけど、成績も学年トップになったりするらしい。科学の進歩はすごい。これのおかげで、日本には学年トップが大幅に増えたに違いない。僕も2倍速でラジオを聴いて、60歳までには学年トップになろうと思う。

2010/8/8 「財布を忘れたい」

コゼニーレを買った。

バイトに行くとき、よく財布を忘れてしまう。近いので、忘れてもさほど困らないし、取りに戻るほどでもない。しかし、ちょっとジュースを買って飲みたい時など、お金がないと不便だ。そこで、かばんにひとつ、常にコゼニーレを忍ばせておけば、財布を忘れても大丈夫だ。

むしろ、財布を持ち歩くと、無くしたとき、お金以外の大事なものも一緒に無くしてしまうので、バイトに行くだけなら、コゼニーレだけ持っていくくらいがちょうどいい。

これで、安心して、財布を忘れて家を出ることができる。早く「あ、財布忘れた！でもコゼニーレがあるから大丈夫♪」という経験をしたいものだ。

以前、鍵を無くして、家（豪邸を想像していると思うが、アパートである）に入れなくなって困ったという話を書いたと思う。

記憶があいまいだが、たしかその時は機転を利かせて、体をいったん細かく分解して、郵便受けから入れて、内側で組み立てなおすことで中に入ったのだった。

そして家の中に保管してあったもう一つの鍵で今日まで過ごしていた。

それが今日になって急に無くしたはずの鍵が見つかった。バイトの帰り、僕がいつも通る道にある、鉄パイプの柵みたいなところから出っ張っている、落ちていた鍵を引っ掛けるためのネジに引っ掛けてあった。

昨日まではなかったはずだ。あれば気づくはずだ。鍵を無くしてからというもの、どっかに鍵の姿をいつでも探してしまっていたのだから。今日、誰か拾った人が引っ掛けておいてくれたのだろう。

久しぶりに手にした鍵。キーホルダーが雨にさらされたらしく、さびている。しかし、鍵は少し傷んでいるものの、ちゃんと使える状態だ。家に帰って来ると、僕はそれで鍵を開けた。

「おかえり」。家に帰ってきたのは僕なのに、そうつぶやいた。

2010/8/18 「ベッケンバウアー」

「ドイツ人って、みんな強そうな名前だよなあ」と思い立って、思い浮かぶ限りのドイツ人の名前を挙げていたら、2時間近く経っていて、もう深夜1時にもなろうとしている。

僕は時間の使い方が下手なのだろうか。

ドイツ人の名前って強そうって書いたけど、アメリカ人でも「アームストロング」って名前だったらすごく強そうだ。そのままだけだ。

あくまで名前だから、べつに病弱で、朝礼の校長先生の話が長いとすぐ貧血で保健室に運ばれるアームストロングがいてもいいし、プールで泳いでいて、水をかいたとき水圧で腕折っちゃうアームストロングがいてもいいわけだから、名前で強さは決めつけられないはずなのだけど、名前のイメージって先行しちゃうものだなあ。

「玉山鉄二」っていう名前なのに職人さんじゃなかったりとかすると、妙に納得がいかないし。

2010/9/7 「350円」

最近、食費を1日350円に設定している。喧々諤々の脳内会議の結果、財政状況から見て、350円くらいが妥当であるという結論になったからである。

余った分を繰り越したり、はみ出た分を翌日分から差し引いたりするのだ。無理そうに見えて、結構できる。

それもこれも、「まかない」のおかげだ。飲食店で働いていると、安くご飯が食べられるというアドバンテージがある。余ったやつはタダで食べられたりもする。

バイトを選ぶ際、こういうメリットは見逃せない。よく、コンビニでバイトしてると余った弁当がもらえる、なんて話も聞く。

まてよ。てことは、造幣局でバイトしておけばよかったのか……。気付かなかったぜ。

2010/9/24 「心のキャッチャー安部」

安部公房の『他人の顔』という小説を読み終えた。最後の方は安部公房らしさがよく出ていてとくによかったが、全体的に見てもなかなかおもしろかった。良く書けていると思う。まあ、ちょっと小難しくなりすぎてるかなとも思ったが、それも読み応えがあっていいのかもしれない。

また、文庫の最後についている大江健三郎先生の解説も、見事なものだった。大江さんもいい文章書くじゃないか。

安部公房と言えば、高校時代に『砂の女』というのを読み、すごく面白かった記憶がある。

読んでいたら、母に何か官能小説のたぐいだと勘違いされ「ま！なんてもん読んでの」と非難された。そんなレベルの親なので、このころは早く一人暮らしがしたくて仕方なかったものだ。僕の『砂の女』の文庫には、そんな記憶もしおりと一緒にはさんである。

2010/10/2 「やくみつると小室さんとつく♂」

「日野ちゃん」という、すごくかわいいメガネっ娘が登場することで有名な書道漫画『とめはねっ!』の最新刊を読んだら「いろは歌」の解説をしていた。

「いろはにほへとちりぬるを」というあれである。50音の言葉を一字ずつ使って、見事に意味の通る歌になっているという。

ただ、ずるいなあと思うのは「いろはにほへと」の最後の「と」は「ど」と読ませるわけじゃん。昔は濁点の表記はなかったわけだけど、そういう風を選択肢が広い分作りやすいと思うのだ。

ということで、僕も「あ」～「ん」まで（46文字）を一回ずつ使って、意味の通る文章を作って、平成のいろは歌として小学校の国語の教科書に採用されたくなってきた。

僕の子供のころからの悪い癖で、こういうのを始めてしまうと、ごはんも食わず、寝るのも忘れ、見境なくやり続けてしまう。かなり時間を使ってしまった。

とりあえず2つできた。濁点で読ませるなどの、姑息な手は使わなかったところを評価してほしい。

やくみつる
ひたすらとしよりのふねをおそえ
こむろさんちへゆけ
ほうせきは
あめにぬれてもかまわない

お、やくみつるに何か悪いことをさせようとしてるぞ。小室さん気をつけて。

おかねをけちり
ふるさえもないこのへやに
しあわせゆめみて
たぬきとすむよ
ひるまはほられそう
つんく

つんく♂さん、お金あるんだから、そんなところに住まなきゃいいのに。「ほられそう」ってなんだよ？タヌキに？

あと、おちまさとさんに対して失礼な内容のやつも出来かけたけどやめておいた。

さあ、あなたもやってみよう。

2010/10/8 「ロース」

もも肉なのに「ロース」と表記する傾向にある焼肉業界に対して、消費者庁が改善を求めたという内容のニュースがグーグルのトップページ出ていた。

焼肉業界では、部位というより、食感で「ロース」や「カルビ」を分けているので、もも肉でも食感的な面から「ロース」と表記するらしい。

ところで、「ロース」ってそもそも何？

「ヒレ」っていうのもあるけど、ヒレはわかるよ。あの、泳ぐとき便利なやつでしょ。

で、ロースというのは肩から背中の中の肉のことらしい。よし、またひとつ利口になったぞ。

2010/10/8 「アナウンサー泣かせ」

それにしても、「消費者庁」なんてのがあるんだね。社会に疎いから、全く知らなかった。

消費者庁。言いにくい。アナウンサー泣かせだ。

「社長、車掌、首相、車窓から消費者庁視察」みたいなニュースが飛び込んできたらどうしよう。

2010/10/16 「タンメンと坦々麺は全然違うね。」

タイトルとあまり関係ない話します。

電子レンジで温め終わると「ピーっピーっ」って鳴るじゃん？

それはいいとして、そのあと、別の用事があったりして、しばらく放っておくと、もう一回「ピーっピーっ」って鳴るじゃん。あれが嫌だ

「分かってるよ、うるさいな」って思う。

だからいつも、とりあえず、一回鳴ったら、他の用があっても、レンジのドアは意地でも開けておく。

そうすれば、もう一回呼ばれなくて済むから。

それだけはいつも欠かさない。

2010/10/18 「悪夢再び」

昨日、スーパーに行って帰ってきたら、鍵がない。

いやいや、まさかまさか。

きっと、手提げの中に入ってるはずだ。

落ちつけ。家を出て、手提げの内側の、すべすべしていて、鍵などを入れたらすべり落ちやすいポケットに確かに入れたはずだ。

しかし、そのポケットを探せど探せど見つからない。手提げをひっくり返して、中身を全部出して一つずつ確認する。

財布、携帯電話、免許証、包丁、覆面マスク。

鍵はやはりない。

まあまあ、鞆に入れたつもりで、無意識にズボンのポケットに入れたに違いない。よくある話だ。

ズボンのポケットを検める。ブラジャー以外何も入っていなかった。

ない。鍵が。

こうなると、後悔の念しか湧いてこない。

なぜ鍵をかけてしまったのだろう。

鍵なんてかけなければよかった。

すっかり青ざめてしまった。また鍵を無くしたなんて言い出したら、いよいよ僕は笑い物になってしまう。学習能力がないと言われてしまう。

とりあえず、ウォークマンで聴いていたラジオをいったん止めた。

そして、別の番組に変えた。ちょうど番組が終わったところだったからだ。

そして、来た道に戻りながら探すことにした。

僕の推理が正しければ、僕が家を出てから、帰ってくるまでの間に、鍵を無くしたのだ。

よって、それまでの行動をたどっていけば、鍵が見つかる可能性がある！真実はいつも一つ！

さすが、見事な推理だよ。ユウヒ君。

アパートを出て、さっきの道に戻る。するとアパートの道路を挟んだ向かい側に鍵が落ちていた。

ふう。たいしたことなかったな。

僕は学習能力がないわけじゃなかった。その証拠に、鍵を持っているし、家にも入れた。

2010/12/29 「△」

「本田三角形」みたいなのが流行語に入ってたけど、テレビをほとんど見ないせいもあり、僕はその意味が未だにわからない。

本田がサッカーの本田選手であることや、「さんかっけー」の「かっけー」が「かっこいい」とかかっていることなどはわかるが、本田と三角形の関係がわからない。

本田選手の頭の形がおむすびまんにそっくりならわからなくもない。「本田三角形だな」って思う。でも、実際の本田選手はおむすびまんみたいな感じでもない。

でもこのインターネット社会だ。調べればきっとわかるはずだ。気が向いたら調べてみようと思う。

そういえば、クリスマスが終わった。

僕は当然、クリスマスなど、祝っていない。キリストなんて会ったことも、見たこともない人の誕生日を祝う意味がわからない。でも、あの世間の狂乱ぶり。極彩色の街並み、とち狂う人々の群れ。飛び交う奇声。電車の中で椅子を抱えてすげー邪魔なのに、一人で幸せそうな顔の人。いつから、こうなってしまったのだろう。

神だか何だか知らないが、僕にとってキリスト以上に神のように思っている人がたくさんいるので、どうせ誕生日を祝うなら、そっちをより祝いたい。

さて、クリスマスに聴きたい歌といえば、さだまさしの『遥かなるクリスマス』である。今年は泣ける歌として『トイレの神様』なんてのが話題になったけど、さださんは、そんな泣ける歌の宝庫である。

『遥かなるクリスマス』も然り。ウォークマンに入れて、初めてコンビニでパンを物色しながら聴いたとき、途中から、立ちすくんでしまい、パンを見つめながら震え泣きしていた。

傍から見れば、どんな泣けるパンが置いてあるのだろうと思うところだ。

聴いたことがない人は、来年のクリスマスには是非聴いてください。

2011/1/1 「あけましておめでとうございます」

新年最初ということで、鼻毛の話から入りましょう。

鼻毛を抜いてみると、愕然とする。昔は鼻毛なんて、せいぜいまゆ毛くらいのものだと思っていたのに。子どもの頃と比べて、本当に鼻毛って太く長くなったものだ。

これは僕だけなのだろうか。普段、人と鼻毛の話をしないから人の鼻毛の太さまではよくわからない。でも、僕だけ特別とは思えない。安めぐみさんとかもそれなりに太いのが生えてきているんじゃないだろうか。

昔のような産毛みたいな鼻毛に戻りたいといつも思うのだが、そんな願いはドラゴンボールでも集めない限り、叶いそうにないので、一生この鼻毛と付き合っていくしかないのだろう。

悲しいけれど、きっと、それが大人になるということなのだ。

そんな気持ちを歌ったのが、ユーミンの『あの日にかえりたい』である。「鼻毛」と直接表現することは避けて、「青春の後ろ姿」などに置き換えているが、とても気持ちが伝わってくる素敵な歌だと思う。

2011/1/14 「なんでもいいけど、寒い」

電気代がまた5000円超えてきた。

寒いもんね。

さて、環境問題とか温暖化とか、異常気象とか、いろいろ言われてるけど、地球の長い歴史（46億年）を見ると、地球の気候って、ここ1万年くらい、異常なほど安定しているらしい。

それまでは、氷河期があったり、氷河期があったり、なんか変動の激しい大変な気候だったらしい。

みんな、今の気候しか知らないから、地球なんてそんなもんだって思って、科学で自然を克服したみたいな顔して、「地球にやさしく」なんて言ってるけど、本来、そんな上から目線で言えるような相手じゃないし、むしろ、こっちが地球にやさしくされてる側だ。

本当なら「これ以上温暖化したら、北極のクマさんが住めなくなる！」なんてレベルじゃ済まないところなのだろう。

もちろん、温暖化が今の安定を一気に崩す引き金になりうるから、温暖化を食い止めたほうがいいのは確かだなのだけど、人間がどんなに努力しても、遠い将来、地球の気候がどこかで急変する可能性はあるし、それすら、地球の歴史を紐解けば異常ではないわけだし。

まあ、つまり、地球ってそのくらいどうにもならない相手だから、自分の小さなエコ活動でどうにかなるレベルじゃないものだと思った方がいいと思う。

自分の生活とか健康優先で、そのうえで、気休めかもしれないけどなんて思いながら、環境問題に取り組むくらいでちょうどいいんじゃないかな。わかんないけど、たぶん。

かつて、100円ショップが流行り始めたころ、「え？これ100円？」って、一番驚いたのは電卓である。

「この電卓は7の段がうる覚えなので（七七四五だと思っているので）、たまに間違えます」とか、「正確な計算が出来るやつは100円じゃ売れないから、わざとたまに計算間違いするようにプログラムすることで、価値を下げてみました」ということならわかるが、そんなこともなく、ちゃんと正確に計算してくれるやつが100円で買えるわけだから、なんかすごいなと思った。

最近では、それもすっかり当たり前になってしまったが、それでも、電卓100円って、買ったら得かもという感じはある。

100円ショップによく行く人は、そのたびに2～3個電卓を買うようにしたらどうだろう。お値段以上の買い物が出来て、毎回得した気分になれると思う。そのくらい計算が出来ない人なら、電卓もたくさん必要かもしれないしね。

よく、あの人は性格がいいとか、あいつは性格が悪いとか、そんな話を耳にする。

でも僕の場合、性格についてずっと考え続けてきたため、性格がいいと言われる人の裏に、強く人から愛されたいという願望があることを知っている。こうすれば愛される。それを正しく計算できるからこそ、人に対して親切にしたりする面がある。

そのため、自分が誰かに気に入られようとか、好かれようという行動を取ろうとする度、自分でストップをかけてしまう。

「お前は、そんなに人に愛されたいのか」

もう一人の自分が、そう、問いかけてくる。

その度に自分が、純粋な気持からではなく、ずるがしこい計算でもって人に好かれようとしているのではないかと考えてしまい、行動がとれなくなる。

別に、人から愛されたくて仕方なくて、そのために行動したっていいじゃないか、とも思うのだが、そう考えてみても、長い時間をかけて培われた気持ちはなかなか変わらない。

人に親切にしたり、褒めたり、そういうことがほとんど出来なくなっている。

ものすごく不器用なのだ。

いつもニコニコして人あたりが良くて、でも陰では悪口ばかり言ったり、自分に都合の悪い状況になると、人が変わったように怒り出したりするような、裏表を使い分けるのが上手い人間がいるのを見ると、なんとなく、そういう生き方をしたくないと思う。

自分を偽ってでも、自分の利益になることをしよう。人をだましてでも、自分がいい思いをしたい。そういう動機で行動することが怖いのだ。

だから、自分の行動は、相手をいいように操ろうとしていないだろうか、相手のために思っているふりをして、本当は自分のためなのではないだろうか。いつも気にしてしまっ、自由に振舞えない。

つまりは、考えすぎなのだ。

人はそんな僕を見て「性格の悪いやつだ」と思うのかもしれない。なにしろ、親切に対して、親切で返せないのだから。でも、それでもいいのだ。作為的に計算して行動した結果「性格のいいやつ」になるよりまだましだからだ。

そんな僕が、これから先、どうやって、人とコミュニケーションを取っていくべきなのか。未だにその答えが出せないでいる。答えのないまま、漠然と生きている。

そんなだから、人と親しくなることなど、出来そうになく、このままでいいのかといつも思いながら生きている。

でも、僕の中では、今はそれを考える時ではない。気にはなるが、今は他にやることがある。

そうしているうちに、どこかで答えが出るかもしれない。いや、すでに答えを知っているのかもしれない。いずれにしても、今の目標を、人とのコミュニケーションをどうにかしようというところには置けない。

ということで、対人的なものについては、もうしばらくの間、確信も自信も持てないまま過ごすしかなさそうだ。

でもいつか、そのへんもいい感じに吹っ切れる時が来ると自分では思っている。

黒澤明監督『用心棒』を見た。さすがに面白かった。

三船敏郎演じる侍は、桑畑を見て「桑畑三十郎」と名乗った。『椿三十郎』で、椿を見て「椿三十郎」と名乗ったように、名前を聞かれると、その時目に入ったもので名前を付けるようだ。

ということは、地方のバイパスとかでたまたま名前を聞かれたときは

「あんた名前は？」

「俺か？・・・俺は・・・『ロイヤルHOST三十郎』。と言っても、もうすぐ四十郎だな」

とかなるのだろう。そうすると後半の自分ツッコミも明らかにポイントがずれている。そっちじゃないだろと言いたくなる。

それから、ラーメンズの『TOWER』のDVDがようやく借りられたので見た。

自由な感じでいいなあと思った。凝り固まった頭がほぐれる感じがした。

1月は、20本くらいDVDを見た。マンガを7～8冊。本は2冊。CDは落語2枚と、マイケルジャクソン1枚。これで、おなかいっぱいです。これからは読書をもっと増やしてバランスよくいきたいです。

人はロッキーのテーマを聴くと、本能的にトレーニングをしなくてはという気持ちになるものだ。

さっきまで普通に、ぼんやり料理を作っていた人が、ロッキーのテーマを聴いたとたん、おかもちをもって走り出し、階段を駆け上って両腕を高く掲げたりする。

ちなみにその人を描いたのが「上海エクスプレス」のロゴマークである。おたまみたいなのは置いていけばいいのに。

だから、筋トレを始めようと思っている人が、まずはじめにやらなければならないことは『ロッキーのテーマ』を入手することだと言える。

例えば、腕を頭の方にまわして腕枕みたいな状態で眠ってしまったりすると、肩から先への血流が止まってしまって、目を覚ました時、まったく感覚がなく動かないことがある。

自分の腕なのに自分のものじゃないみたいになっている腕。血液が流れないだけで、こんなことになるのかといつも驚き、「これが死ぬってことなんだな」と、しみじみ思う。

そんなとき、動く方の腕で、死んでしまったほうの腕を正常な位置に戻し（一度、両腕が死んでしまったことがあるが、あの時は焦った）、回復を待つ。

次第に感覚が戻ってくる。

あ～、やっぱり血液が流れるって大事なことなんだな。生きてるってことはそれが全てなんだなと思いつつ、別の考えが浮かぶ。

さっき自分のものじゃないみたいに感じていた腕に血液が流れたら、自分の腕になったってことは、血液さえ流れれば、例えば木の棒とか電動歯ブラシとかでも、体に組み込んで血液が流れれば、感覚が具わって、自分の体の一部になっちゃうんじゃないだろうか。

もちろんそんなことはないのは知っている。考えて、ちょっと怖いなあなんて思っただけ。

ところで最近ちょっとメガネがかゆいんだよね。

2011/2/27 「あなたにとってわたしたただの通りすがり」

昨日、いつものようにぼんやり歩いていたら、道端でものすごい勢いでスクワットをしている女の人の後ろ姿が見えた。

すごい速さである。よほど早く筋肉をつけたいのだろう。

でも、残念ながらフォームがいまいちよくない。

正しいスクワットのフォームは膝を前に出さずに、お尻を後ろに突き出すように下ろしていく感じなのだ。

教えてあげたい気もするが、余計なお世話だろう。ここは我慢して通り過ぎよう。

と、思って、近くでよく見たら、自転車に空気を入れているだけだった。

2011/3/9 「本を読むためガストへ」

今日、時間がたっぷりあったので、ゆっくり本でも読もうと、ガストに行った。

2～3時間で読めるだろう。ファミレスで読書をして過ごす。なんて贅沢な時間だろう。

周りの音を消すために、ウォークマンで軽く音楽を流し、読書には最高の環境を作り、そして家に本を忘れたことに気付いた。

近頃アマゾンのマイページの「あなたへのおすすめ」の筆頭が『バカはなおせる』という本なのは
どういうことだと思っていたが、アマゾン
は正しい商品を薦めてくれているものだと感心した

。

2011/3/16 「地震の影響」

地震の影響で、お休みしていた雑談ですが、そろそろ再開します。雑談なしという大変なご不便をおかけいたしましたこと、お詫び申し上げます。

さて、こちらの近況といえば、近所のスーパーなどではあまりものがない状態だという噂を聞いた。僕は地震以来一度もスーパーに行っていないので見たわけではないが、保存食など買いだめする人も多いのだろう。

僕はといえば、そのうち何とかなるだろうと、のんきにしている。いい機会だから、スーパーに食料を買いに行かず、今家にある食料の不良在庫を処理しようと思っている。

あと、まだガスが使えない。これもそのうち、どうにかなるだろうと、今は水で頭を洗ったりしている。

それと、これが一番大きな影響だが、「被災地」という言葉を聞くたび、いしいひさいち先生を思い出す。いまどうしているのだろう。

大きな地震があると、ガスは自動的に止まるシステムになっている。

復帰させるためには、ガスのマイコンメーターについている復帰ボタンを押せばいいのだという話はテレビでも大いにやっているし、1～2か月前にガスの点検に来たおにいさんも言っていた。

地震から一夜明け、止まっているガスを復活させるべく、メーターを確認する。ガスが止まるとランプが点滅するらしいが、ランプは点滅しておらず、消えた状態だ。ランプがついていないときは正常らしいのだが、ガスは止まっている。

とりあえず、復帰ボタンを押してみた。

やはり、ガスは止まったままだ。

翌日も、その翌日も、ガスは使えない。

まあ、大きな地震があったあとだ。それも仕方ないだろう。どこかで、ガス大臣みたいな人が危ないからと、ガスを止めているのかもしれない。ありがたいことだ。

もっと大変な思いをしている人もいっぱいいるのだ。ガスくらい、なくても気合いで何とかかなるだろうと、気合いを入れて、冷たい水で頭を洗った。

しかし、ガスは一向に戻ってこない。聞くところによると、僕の近所のみんなのおうちはガスが使えるという。

これはおかしい。もう一度見てみて、直らなかつたら、ガス屋さんに連絡しないと、暖かいお風呂に二度と入れない可能性がある。

マイコンメーターをチェックする。相変わらずランプは消えたままなのに、ガスは出ない。

やり方がおかしいのか？指が痛くなるくらいグッと強く押す。でも指が痛くなっただけでガスは出ない。

それにしても、隣の206号室のマイコンメーターのランプ。ずっとピカピカ点滅している。早く直せばいいのに。

知らないのかな？だれも住んでないのかな？

ん？さてよ。

201号室のメーターがこれ、202はこれ、203は……。

あ。206号室のだと思ってたのがうちのだ。てことは、僕が自分の部屋のメーターだと思って、いままで一生懸命ボタンを押していたのは208号室のメーターだったのか。

いままで隣の部屋のだと思っていたボタンを押したら、すんなりガスは復帰した。

なぜこんな勘違いをしたのかというと、僕の部屋の給湯器「ユッコ」は208号室側にあるからだ。給湯器の下にあるメーターが自分のだと思いこんでいた。実際にはドアの右上に給湯器、左下にメーターという作りだった。それが何部屋も並ぶと、「ユッコ」とメーターが上下セットだと思うじゃん？普通。

みんなお互いに隣の部屋のボタンを押しあうことでガスを復帰させたに違いない。そんな中、206号室の人だけ、間違えずに自分のメーターを見抜いたのだろう。

気を利かせて僕の部屋のも押しておいてくれればよかったのだ。おかげで、要らぬ我慢をさせられてしまった。

「Evernote」を使い始めた。

とりあえず始めた感じなので、まだよく使い方がわかっていないが、これはすごいと、新しいおもちゃを買ってもらった子どもみたいにウキウキしている。

いろいろたまってくるメモなどをどう整理、あるいは処理していこうかというのが、積年の悩みだったので、エバーノートの登場は僕にとって僥倖だった。自分なりの使い方を工夫していけば、かなり楽しく使えそうだ。

エバーノートって何？という人も多いだろうが、僕にそれを上手く解説する自信はないので、ここではエバートンについて解説しておく。

エバートンは、Jリーグ発足当時、横浜マリノスで活躍していたブラジル出身の元サッカー選手である。

よく、「人間にはいろいろ不平等なことがあるが、時間だけは平等だ」ということを、訳知り顔で言う人がいる。自分はこの世の真理を悟ったとでも言わんばかりの得意顔で。

一日に与えられる時間は誰でも24時間で平等だと。

僕はこの考えに全く賛同しない。

僕に言わせれば、「一日は24時間でみんなに平等です」ということは、「一万円の価値はみんなに平等です」というのと同じことである。「1センチの長さはみんな平等です」というのと同じである。

そこで区切っているのだから、当たり前なのだ。身長が低い人に対して、「1センチの長さはみんな平等だから大丈夫だよ」などと言っても、何が大丈夫なのかさっぱりわからないだろう。

大金持ちから「私の一万円もあなたの一万円も同じ価値だから、少しも不平等じゃないですよ」と言われても、それはむしろ逆だとさえ思える。同じ価値だからこそ、たくさん持っている人と、あまり持っていない人との差が問題になっているのだ。

時間だってそうだろう。全員がちょうど33000日間生きられることが決まっているなら平等だと思うが、長く生きられる人も、生きられない人もいるのだ。どの面を下げて時間はみんなに平等だなどと言えよう。

それでも時間は平等だという人がいるのは、僕とは時間のとらえ方が違うからなのだろう。

たぶん、彼らを含め、多くの人は、時間というものがあって、それが水のように一定のペースで流れていて、それによって、世界や宇宙のあらゆるものが動いているというイメージでとらえているのではないかと思う（一定のペースで流れているというあたりから、みんなに平等だと考えているのだろう）。そして、タイムリミット、つまり死があって、その日がいつか分からないけど、その日までが自分の持っている時間だと。

僕は逆のイメージを持っている。あらゆる物質が法則に従い一定の運動をし、変化する。その変化をとらえる、認識する、感じる、そして想像する人間の能力が時間なのだと思う。時間とはあるものではなく、感じるものだというのが僕の意見だ。実際に存在するものではなく、概念としてのみ存在するものだということだ。決して一定のペースで流れているものではない。「双子の理論」というのもあるように、宇宙には絶対的な時間はないと言われているし、この考えの方が、宇宙の真実に近い気がする。もちろん実際のところ、（僕には、いや僕でなくても）どうなのかはわからないし、知りえないことなのかもしれない。

地球に住んでいる限り、別に前者のとらえ方でも、何の問題もないように思える。ただ、一つ注意しなければならないのは「生きられる時間は限られているのだから、一日24時間をフルに生

かして頑張ろう」と思いすぎると、無理をしすぎることになるということだ。

一日が24時間なのはみんな平等だという人は、その24時間をもっと頑張って使って、人より努力すべきだということが言いたい可能性がある。しかし、睡眠時間が短い人は寿命も短い傾向にあるというし、無理をして健康を損なえば、元も子もない。

命のタイムリミットがあるというイメージを強く持ちすぎると、そのタイムリミットを早める可能性があることを忘れてしまう。

だとするなら、どこかにタイムリミットがあるという考え方ではなく、自分の生きる時間は自分である程度コントロールできるという考え方をした方がいいように思う。つまり、より健康的に生きることで、活動できる時期を延ばすのである。

やりたいことにもよるけど、僕には、この方が、ずっと大きな成果があげられるように思う。

時間はみんなに平等に流れているどうにもならないものではなく、自分次第で変わるものだというイメージを持つようにしたら、僕自身、ゆとりが生まれた気がするし、おすすめしたい。

2011/5/29 「あなたは二羽の芝を飼っていた」

僕もたくさん勉強してきたので、もう知らないことはほとんどないのだが、唯一知らないのが、バイクなどで暴走行為などをされる方々が、パララパラララ……と鳴らすゴッドファーザーのテーマ曲。あれをどうやって鳴らしているのかが分からない。

ある種のバイクには標準装備としてゴッドファーザーボタンが付いていて、それをポチッと押すと流れるようになっているのか、あるいはバイクの後ろに載っている人がラッパを生演奏しているのか。

まさかクラクションの音の高さの違うバイク何台かで連携して、順番に音を鳴らすことで演奏しているわけではないだろう。本当はハンドベルがやりたかったのに、ハンドベル部がなかったから、仕方なくバイクでやろうという人たちが集まって演奏しているなら応援したい気もするが。

あと、曲はゴッドファーザーじゃないといけないのだろうか。島津ゆたかさんの『ホテル』じゃダメなんだろうか。「手紙を書いたら叱られる 電話をかけてもいけない」のところを「パララパラララパパパパ……」という感じでできると思うのでトライしてほしいのだが。

ということで、検索して調べてみたら、あれは「6連ホーン」みたいな音を鳴らす道具を使っているということらしい。知ってしまうと「なあんだ」って感じだ。

でも、こうやって知らないことを見つけて、勝手に予想してから調べるという遊びはおもしろいので、これからもやっていこうと思う。

2011/6/21 「三成でいいんだっけ？」

マックでホットコーヒー頼んだら、驚くほどぬるい。

きっとこれは石田三成のお茶のエピソードを意識しているのだろう。なかなかやるな。

2011/6/21 「食べ物のクレーン基準」

料理に髪の毛が入っていたりすると、当然クレーンものである。

ただ、おそらく僕の場合、訪れた料理店で髪の毛が入っていても、クレーンをつけることはないと思う。それは、クレーンをつける勇気がないとかではなく、別にそのくらい適当に取り除いて食べればいいだけなので、騒ぐほどのことでもないからだ。意に介さないというやつだ。

コバエ程度の小さな虫なら同様である。髪の毛も、小さな虫も、食べたくはないけど、食べられないこともない。食べても害はないだろう。

「ちょっとくらいの汚れものならば残さずに全部食べてやる方式」でいけば大抵大丈夫なのだ。

これもある程度、田舎で育った影響かもしれない。小さい頃は、イナゴのつくだ煮も食べたし、桑畑からドドメをむしってそのまま食べたりしていた。田舎育ちだから、こたつにもぐって寝っ転がりながらご飯を食べたり、散らかったおもちゃや紙クズに囲まれてご飯を食べていた。田舎だから、ご飯そっちのけで遊びながら、口に食べ物を運んでいて、自分でも何を食べてるのかよくわかっていなかった。そうやって、育ったので、あまり食べ物には神経質にならなかった。

じゃあ、これはさすがに食べられないという境界線はどこなのだろう。例えば飲食店に行って、大きめのハエが食べ物に入っていたら、さすがに嫌な気分になる。その場合、店員さんが近くにいたら、伝えるかもしれない。が、わざわざ呼び出したりはしないだろう。ただ、そのハエが2匹入っていたら、呼んでくると思う。

髪の毛とか小さな虫でも、数が2つだと、ちょっと嫌だ。まだ出てくるんじゃないかと思うから。

まとめると

- ・ すごく嫌だ＝大きめの虫×2
- ・ 嫌だ＝大きめの虫×1
- ・ ちょっと嫌だ＝小さな虫、髪の毛×2
- ・ 全然平気＝小さな虫、髪の毛×1

そんな感じなので、水道水すら飲むのを嫌がる人を見ると、潔癖症だなあとと思う。ちょっとくらい汚れてるものを取りこんだほうが、きっと体も強くなるのに。

そんな僕も海外で生水など飲んだら無事ではいられないだろう。彼らから見れば僕もまた同じ穴のむじなである。「3センチのゲンゴロウが食べられないなんて、君も潔癖症だな」などと言われてしまうのかもしれない（どこの国だ……）。

「必」の書き順ってわからないよね。

子供の頃、上の点から書くのだと習ったので、そうやって書いてきたのだ。

でも、いつだったか、誰だったかに（確か、教育実習に行った時の先生だったと思うが、定かではない）、それは書き順が違うと注意された。

最初に小学校で教わったと思っていた、上の点から書くというのは何だったのか。僕は、騙されていたのだろうか。

もう終わりだ。いままでずっと違う書き順で書いていたなんて、生きていても仕方ないんだと落ち込んだ。

じゃあ、一体、何が正しいというんだ？

どうせ正しい回答は得られないのだろうと思いつつ、その辺にいた母親に聞いてみたら、まず「心」を書いて、最後に斜めに線を書くのだと言う。心をズバッと斬るみたいだ。

どうせ間違っているのだから、辞書で調べてみたら、左の点が1画目だと、書いてある。そこまでは、母親の説が合っていそう。でも、「心」の3画目の上の点を書いてから斜めに、けさ斬りして、噴き出す返り血を浴びながら、踵を返して「またつまらぬものを斬ってしまった」とつぶやいてから、最後に右の点を打つとその辞書には書かれていた。そうだったのかと思って、その書き方に直した。

それから、時が流れて、電子辞書を手に入れて、そのことをもう一度調べたのだ。

そうしたら上の点が1画目だとはっきり書かれている。上の点を打って、中村主水よろしく×字に斬ってから（中村主水が×字に斬るイメージはパチンコから勝手に得たもの）返り血を浴びつつ、踵を返して「またつまらぬものを斬ってしまった」とつぶやき、仕上げに左右に点を打つのだという。

あれ？前に見た辞書と違うぞ。これこそ僕が最初に習った書き方だ。

辞書によって違うということか？ 流行りすたりによって変わるのか？もう、わけがわからない。

まあ、書き順なんて、誰かが決めたことだ。「必」ず正しい書き順があると考え「必」要もあるまい。

なので、これからは上の点から書くようにしようと思う。

しばらく運動をしていなかった。

ずっと体力落ち放題なのが気になっていたが、放っておいた。が、いよいよ最近、体力の低下が深刻で、自分に自信が持てなくなってきたり、あまり人と話をしたくなくなってきたり、走るのが面倒に感じたり、元気が出にくかったり、頑張りたいところで頑張れなかったり、勝ちたい試合でヤクルトが勝てなかったり、いろいろ悪影響が出てきてしまった。

体力は、どのくらい落ちていることだろう。だいぶ落ちているだろうが、それでもまだ、片手で腕立て伏せくらいは軽くできるだろう。

試しに、左手一本で腕立て伏せをやってみる。1回やったところで、目の前に無数の星がちらついていた。

鬼束ちひろは、これと同じ経験を歌にすることが出来たからいいけど、僕は歌手ではないから、こうも簡単に「眩暈」や「流星群」が現れるのはまずい。今日からゆっくり、トレーニングを始めることにした。しばらくは、続けるために本当に軽いものにする。

実際の効果というより、「やってるから大丈夫」という精神的な効果が得られるだけでも違うはずだ。

「やってるから大丈夫」という精神的効果を得るためなら、実際やらなくても、やったと思いつむことが出来れば十分なのだが、その方が難しいので、ちゃんとやる。

そうして、やってみると、筋肉も思った以上に付いて、実際の効果も期待以上のものが得られるものだろうと期待している。

2011/8/2 「4・9運動」

例えば、財布に、千円札数枚と、100円玉が3枚、10円玉が4枚、1円玉が4枚あって、コンビニで買いものをして274円と言われた時、どうするか。

ここで「あ、4円ある」などと言って304円出す人は素人だ。324円出すという人も同様である。330円を出すというのもあまりよくない。ちょっとややこしい。

ベストは素直に100円3枚出して26円おつりをもらう。

お会計の1の位が「4」とか「9」のときは、1円玉が4枚あったとしても、1円玉には手をつけない。なぜなら、1円玉を4枚取り出すという作業が大きな手間だからだ。

桁が上がって下2けたが「40」とか「90」のときも同様、10円玉を4枚取り出すのは面倒なので避けるべきだ。

次のことを座右の銘にしてほしい。

『お釣りをもらうより、小銭をたくさん取り出す方が、かかる時間も労力も大きい』

何が何でも、もらうおつりを減らそうとする人がいるが、それは素人のやり方なのである。

「でも。細かいの出さないと、どんどん小銭がたまっちゃうじゃない」と思うかもしれないが、細かく出せば、本当に小銭は減るのだろうか？

じゃあ仮に、ここで274円と言われた時、304円出して、お釣りを30円もらうとしよう。

そして、次のお会計の時、もし「1001円です」と言われたらどうするのか。1円玉がないから、結局細かいお釣りをもらわないといけなくなる。これでは、お釣りを渡す方の店員さんも大変だ。「1円ないんですか」みたいな顔をされてしまうだろう。

細かく4枚小銭を出すという苦勞をしたのに、いや、したのために、また細かく戻ってくるといふ、自分にも、店員さんにも無駄な労力が発生しているのである。

ということで、次のことも座右の銘に加えてほしい

『小銭は適度に持っている方が便利』

座右の銘、容量いっぱい、これ以上増やせないよという人は、あなたの座右の銘の『幸福はいつも身近なところにある』みたいなやつは、どうせ役に立っていないのだから、壁から剥がして、新しくこれを貼ってほしい。

考えるべきは、いかに自分の財布の小銭を少なくするかではなく、いかに、自分にとっても店員さんにとっても、お会計を楽に、スムーズにするかである。

ここで4枚1円を出さなくても、お釣りで渡される1円玉は1枚だけだ。もらう方も渡す方も、負担は少ない。財布の1円玉は5枚に増えるが、次の会計の時、198円とかで、もし財布の1円玉がどうしても邪魔だと感じれば、3円を出せばいいのである。別に5枚を邪魔に感じないなら、出す必要はない。7枚に増えたあと、邪魔なら少しずつ出せばよい。こうすれば、別に、ジャラジャラ小銭がたまることはないのである。

結論に移ろう。4円や40円を出すことは、どう考えてもエネルギーの無駄遣いである。

お会計の最後が「4」「9」「40」「90」の時は1円玉や10円玉を使わない。これを「4・9（よんきゅう）運動」と名付ける。

これを読んだ人は広めるようにしてほしい。これでだいぶお会計の時の煩わしさが減るはずだ。

そして、これを広めようとする方が（これを全部説明する必要があるから）、エネルギーの無駄遣いだという事実には、気づかないふりだ！

前回の4・9運動について、誤解のないように、もう少し詳しく説明したい。前回の記事をまだ読んでいない人は、何のことかよくわからないことになるので、先に前回の記事を読んでほしい。

4・9運動は、レジ等の支払いの時、お会計金額の最後が「4」「9」のとき、または「40」「90」のとき、もし1円玉や10円玉が4枚あっても、それを出すのではなく、お釣りをもらおうというものだという説明をした。

ただ、それは、お金の受け渡しをスムーズにするための一つの提案で、意地にかけて、何が何でもこのルールを守るべきだということではない。

例えば、240円のものを買うことになったとする。

財布には千円札と、100円玉2枚と、10円玉5枚入っていたとしよう。4・9運動のルールだと10円4枚は出さないということだから、千円札を出すということになりそうだ。

もちろんそれでもいいのだけど、こういうときは240円ちょうど出してしまえば「ちょうどです。ありがとうございます」で済むので、そのほうがスムーズだろう。店員さんもお釣りを取りだして渡す手間が省け、自分もお釣りを財布にしまう手間が省ける。4・9運動のためにと躍起になって、無理に千円札を出す必要はないのである。

ただ、今の例で財布の中の100円が1枚少ない場合はどうか。ちょうどは出せないで、千円を出すしかないが、ここでもらうお釣りを減らすために、10円玉をわざわざ4枚取り出し、1040円を払う必要はない。千円札だけ、さっと出して、760円のお釣りをもらえばいいのである。ここでわざわざ40円を取りだすのは、前回述べたような理由で、無駄だといいたいのである。

「そうか、ちょうどあるときはちょうど払えばいいのか」と安易に取らないでほしい。

例えば、お会計は98円。で、財布の中には小銭がいっぱい。見ると98円ちょうど出せそうだと、思っても、100円玉があるなら100円玉を出す方が、この場合手間は少ない。98円ちょうど出すとなると、たくさん小銭を取りだす必要があるし、それを確認する店員さんも大変だ。100円出して、2円のお釣りの方が簡単に終わる。

要するに、自分にも店員にも、なるべく手間が少ないようなお金の支払い方をすべきだということなのだ。

4・9運動はそれを最も象徴的に表わす形だから、意識してほしいものとして、提案するわけである。だから「4」「9」に限らず、小銭を出すのに手間がかかりそうなら「3」「8」でお釣りをもらったっていい。逆に「1」「2」のときなどは、あるなら積極的に出していきたい。

10円玉は4枚出さない方がいいとは言ったが、もし財布に小銭が10円玉4枚だけで、財布をひっくり返すだけで簡単に取り出せるなら、出したって構わない。

つまり、小銭をちまちま取り出すような状況こそが、時間と労力の無駄だと言いたいのである。分かっている人も多いだろうが、これが分からず、細かいお金を時間をかけてわざわざ取り出している人があまりに多いのである。

「できるだけ、受け取るお釣りの枚数が少ない支払い」から「できるだけ、自分にとっても、相手にとっても手間が少ない支払い」へとパラダイムの転換をしてほしいのである。

間違っても、868円を支払うとき、ちょうどお釣りが500円になるように1368円出して「頭がいいだろ」みたいな顔をしてはいけない。普通に1000円出せばいいのだ。そしてお釣りを132円もらう方がよほど、手間も時間もかからないし、次の会計の時1012円とかだったら12円が出せる。一方500円玉だとすごい量の小銭をもらうことになってしまう。

だから、受け取るお釣りの数を少なくすることに、そんなに意味はないのである。

お分かりいただけたでしょうか。されば、ぜひ4・9運動を始めて、広めていていただきたい。

2011/8/9 「今日の記事」

マウントレニアのカフェラテを久しぶりに飲んだ。マウントレニアのカフェラテはすっかり夏の風物詩である。

レーニア山はアメリカ合衆国の北西部、ワシントン州（首都ワシントンとは反対のほう）にある山。標高4392m（『与作に木を切らせろ、レーニア山で、ヘイヘイホー』もしくは『黄泉の国、レーニア山』と覚えよう）

そんな所からわざわざ汲んできたカフェラテだとなると、おいしさもひとしおだ。

ちなみに「ひとしお」は「一入」と書く。「入」とは、染めものをするとき染料に布などを投入する回数を表す単位で、一入ごとにどんどん色が濃くなることから、「よりいっそう」といったような意味になった。

2011/9/10 「キャッチコピー」

僕のキャッチコピーですが

「期待すると期待はずれ、期待しないと期待以上！」

になりました。

自己評価なので、実際どうか知りませんが……。

高校生の頃、人に話しかけるということが全くできなかった。

人と世間話をするというというのが、僕にとっては焼けた鉄板の上を裸足で歩くくらい難しいことだと感じていた。

自分から世間話なぞ吹っかけ、もし「なんでそんな話するの？」などと言われてしまったら、もう泣きながら学校を早退し、家に帰るしかない。

自分の選ぶ話題に全く自信が持てなかった。何を話せばいいのか全く分からない。「いい天気だね」などは、完全にアウトだ。それこそ「たしかにそうだけど、なんでそんなこと言うの？」と言われてしまうに違いない。そうなれば、もう、ひとり静かに断崖絶壁から日本海の波しぶきを眺めるしかない。

もし仮に、うまく、当たり障りなく、「なんでそんな話するの？」と言われてずに済みそうな、いい感じの話題を見つけたとしても、それをぶつけた結果、もし「なんでいつもしゃべらないのに、今日はしゃべってるの？めずらしいね」などと言われてしまったら、もうだめだ。山奥の小川のせせらぎの中を服を着たまま腰までつかり、じゃばじゃば、水源に向かって力尽きるまで歩き続けるしかない。

そうして、自分から人に話しかけることなど、一度もないまま、人と関わることも、ほとんどないまま高校を卒業した。

このままでは生きていけない。大学に入ったら、どうにかそういう自分を変えようと思っていた。

そして、大学に入学が決まると一人暮らしを始め、一人で生きられるように力をつけていこうと、自分を追い込んだ。

住むことになったアパートの、電気やガスの開通の手続きの電話も、かけるのが怖くて怖くて、しゃべる内容の原稿を作って、リハーサルしたりしつつ、かける相手の番号を画面に表示した携帯を握ったまま1時間も2時間も、通話のボタンが押せずにいたものだ。

そんな感じだったので、アルバイトをするなんて、とんでもない話だった。そんなことをしたら、山奥の小川がいくらあっても足りない。

僕の今のバイト先にも、高校生くらいのが何人もいるけど、大したものだ。同じ頃の僕の姿と比べれば、とても彼らをバカにはできない（僕が彼らにバカにされることはあっても）。

結局、僕が、本格的にアルバイトが出来るようになったのは、大学5年生のときだった。その話は、また別の機会で話すかもしれないが、今回は枚数の都合でこのくらいにしておこう。

ちなみに、今でも世間話などはあまりしないが、鉄板が焼けているという思い込みからはすっかり解放されている。人と話すことはすっかり怖くなくなった。鉄板は、歩いてみれば、ただの鉄板だったのだ。

今は、「なんでそんな話するの？」というような話ばかりを、あえてしてやってもいいという余裕も出てきている。楽になったものだ。

この成長の記録を本にして出せば、当時の僕のように、悩んでいる多くの人たちに読んでもらえて、金になる役に立てるかもしれないと思うのだが、それはまだ、だいぶ将来（さき）の話になりそうだ。「さき」と読ませるかっこいい締め方だ。

ジレットフュージョンプログライドというひげそりを使っているが、すごく剃り心地がいい。

ジレットというと、なんとなく「じれったい」を思い浮かべてしまいがちだが、全然じれったくないのである。

それまでも、普通のジレットフュージョンを使っていたが、それですら、快適だったのに、今年2月、その進化バージョンのプログライドが出ると聞いて、跳び上がって喜んだものだ。それが、今年最大の喜びだった。2番目が、なでしこジャパンのWカップ優勝かな。

消しゴムを最後まで使いきったことがあるという人が、もしいるなら、早く国民栄誉賞をあげればいいのと思うくらい尊敬する。

僕は鉛筆を残り2センチくらいまで使ったことがある。鉛筆はそのくらいまで短くなると構造上、それ以上使おうとしても無理があるので、使いきったということにしていることになっている。

とはいえ、消しゴムを使いきる難しさに比べれば、鉛筆など、大したことはない。

もし「いいとも」のテレホンショッキングに出たら、100人アンケートでは「消しゴムを使いきったことがある人」と尋ねてみようと思っているが、一人いるかどうか。

7つくらい消しゴムを使いければ国民栄誉賞の受賞は確実だろう。

「7つもの消しゴムを使いきり、国民に物を大切に作る心と感動を与えた」

ところで、「国民栄誉賞」は子どもの頃「国民栄養賞」だと思っていた。国民に元気を与え、栄養となるような活躍をしたという意味で送られるのかと。国民の栄養になるなんてさすが王貞治だなと思っていた。

その後、栄養どころか消化不良を起こしそうな顔の人がたくさん受賞しているの知り、「あれ、おかしいな」と思い始め、長谷川町子さんが受賞したあたりで間違いに気付いた。

2011/10/3 「首にタオル」

美容院に行った。

シャンプーした後、首の後ろにアツアツのタオルをあてた状態でしばらく寝かされるのだけど、これが気持ちいい。

もし死ぬ日が来るとしたら、この気持ちよさの中で安楽に死ねたらいいなと思った。

僕が銃で撃たれるのを見たら、とりあえずアツアツのタオルを持ってきて、首の後ろにあててほしい。

あとがき

お付き合いいただき、ありがとうございました！

おもしろいと思っていただけたなら、これ以上の喜びは、宝くじで高額賞金が当たるとか、好きな人からラブレターをもらうとか、お寿司をたくさん食べるとかの上位グループを除いてありません！

ここまで読んで、ところで、お前は誰なんだという方もいることでしょう。

この本では、僕の素性はできるだけ明かさないようにしました。それでもどうしても文章から知性などがにじみ出てしまっていたと思いますし、どんな人間なのかというヒントは端々に散りばめられていたかなあとと思いますが、もう少し知りたいとお考えかもしれません。

ただ、よく、時代劇とかで謙遜して「名乗るほどの者じゃございません」と言ったりするけど、僕の場合、本当に名乗るほどの者じゃないです。

強いて言えば、こんなのを書くのが好きな人です。

今回、初めて、電子書籍に挑戦しました。電子書籍なんてちゃちゃっと作っちゃおう、などと思っていたら、思いのほか、大変な作業でした。

まず、膨大な量のブログの記事から、本に載せるものを選び出す作業があるわけで、そのためには一つ一つ、読み直さなければならず、それだけでも相当な時間を費やしました。

選んだら、コピー&ペーストしたり、フォントを変更したりしながら編集していきます。さらに、このあたりの文章はカットしたいとか、でも、カットしたらその後の文章の意味が通じない、どうしよう、とかいろいろあったのです。

嫌になりそうでしたが、それでもあきらめずに完成できたのは、どんな形であれ、書いたものが本になるのはうれしいものだ知っているからです。一度、この喜びを味わってしまうと、もうその呪縛から逃れることはできません。

子どものころから、漫画の本をよく作っていた僕は、不幸にも、それを幼くして知ってしまいました。だから今も、正月にもかかわらず、こうして製作作業をしています。そして、これからも、そんなことばかりしてしまうのでしょう。

この本のもとになった「ナカイユウヒの雑談」というブログは終了しますが、ブログ自体はこれからも、どこかで続けていくつもりですし、文章は一生書いていくと思うので、またどこかでお会いすることもあるかもしれません。そのとき、またお付き合いいただければ、これに勝る幸せはありません。

最後になりますが、本文で謂れのないとばかりを受けていた安めぐみさんの幸せを、お祈り申し上げます。おめでとう。お幸せに。

2012年 元日 ナカイユウヒ

ナカイユウヒの雑談

<http://p.booklog.jp/book/41079>

著者：ナカイユウヒ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/nakaiyuhi/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/41079>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/41079>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.